技術の日立
HITACHI
「何かと何かが出会う所」「接触面」という意味の言葉、Interface。「マン・マシン・インターフェイス」というように使われます。人と機械が交わる所、つまり入出力装置や端末装置のことです。しかし、日立はInterfaceをもっと大きな意味でとらえたいと考えています。近年、高度に進歩した機械の多くは専門家のものでした。操作に知識や熟練を要するからです。人間が機械に合わせていたといってもいいでしょう。でも、これからは機械の方が人間の側に歩み寄る番です。実現には、きわめて高度な技術の数かずが必要。しかし、そんな技術こそが人間と機械の新しい関係をつくり上げるカギ、すなわちInterfaceであると考える日立は、あえてこの課題に挑戦してゆきます。
技術との自由な対話
Interface
株式會社 日立製作所 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 TEL東京(03)258-1111(大代)

―皇太子殿下，皇太子妃殿下をお迎えして―

昭和58年度全国高等学校総合体育大会、高松宮賜杯第34回全日本高等学校ハンドボール選手権大会は8月1日より7日間、愛知県豊田市において開催されました。

大会3日目、ハンドボール競技としては、はじめて皇太子殿下・皇太子妃殿下の御台臨を仰ぎ、その折、(財)日本ハンドボール協会副会長荒川清美先生と共に御説明役の大任を戴き、その幸運はこの上もない感激の窮でありました。

両殿下は16時28分、会場である豊田市体育館前運動広場に御着きになり、特に東宮待従の希望により、ハンドボール競技について4分間御説明を申し上げました。その折皇太子殿下より、我が国の7人制ハンドボール競技への切替えがヨーロッパ諸国に遅れたことについて、御下問があり、当時の我が国の実情（国内の普及活動、外国との交流・情報収集の不足等）についてご説明申し上げました。

御観戦の競技は九州学院（熊本）対県立岐阜商業、県立氷見高校（富山）対県立川口工業高校（埼玉）の後半戦で選手の力一杯の熱戦に、両殿下は深い御関心を示された御様子であり、妃殿下より「激しい動きとスピードのあるスポーツなので選手は大変でしょうね」との御言葉を賜わると共に激しい攻撃を身をていして好守するGKの働きに深い関心を示しておられました。

ゲームの進行につれて、皇太子殿下は「攻撃は速く攻めた方が得ですね」と競技についての御理解を示されておられました。

試合中ヨーロッパ風のラッパの応援に両殿下は一瞬驚かれたようでありましたので、ヨーロッパの応援の様子等をご説明申し上げた。

試合終了後、関係役員と4校の選手がお送りした際、親しく御言葉を賜わり、勝者にも、敗者にも深いねぎらいの御言葉と共に今後の精進を期待しておられました。また、妃殿下は九州学院山崎選手（GK）の健闘を讃えられた御言葉も賜わりました。

何分にもはじめての大役であり緊張しておりましたが、荒川副会長のアドバイスに力を得ると共に、両殿下が庶民的に御話をなされましたので気楽にご説明することができ何とか重責を果たすことができました。また、競技の御観戦の折、交される両殿下の御睦まじい御会話は心のなごむものがありました。

この度の皇太子殿下・皇太子妃殿下の御台臨を関係者一同深く感激すると共に今後一層の努力する決意を新たにした次第であります

全国高等学校体育連盟ハンドボール部
部長　清水　正

『ハンドボール』

58年9月号（第222号）目次

【表紙写真】愛知インターハイ男子優勝の久留米工大附属対湯沢の一戦。
（写真提供・スポーツフォトライフ）

■高校総体ハンドボール大会・総評■

素晴らしき大会を顧みて

全国高等学校体育連盟ハンドボール部部長
本大会競技委員長
中西　敬一

皇太子殿下、同妃殿下の御観戦の栄に輝き、昭和58年度全国高等学校総合体育大会・高松宮賜杯第34回全日本高等学校ハンドボール選手権大会は、ハンドボール競技のメッカともいわれる愛知県豊田市の体育館前広場において、8月1日15時、全国2、300余校から勝ち抜いてきた都道府県代表男、女96チームの堂々たる入場行進で、8月6日までの6日間の幕が切って落とされた。

8月1日14時30分選手集合開始、ぽつぽつと落ちていた雨が急に激しくなり全員体育館等に待機せざるを得なくなり、外での開始式が危ぶまれた、が幸いにして西の空が明るくなり大丈夫との判断に立ち決行。

選手入場に先立ち元城小学校の児童による鼓笛隊の演技、ぬかるんだグランドも気にかけず可愛くて見事な演奏、観衆、選手役員一同から大きな拍手が湧き起る。

直前の降雨にもかかわらず、予定時刻を2分過ぎたにとどまり開式通告、国旗掲揚、と式次第もとどこおりなく無事終了することが出来関係者一同ほっと胸をなでおろす。

8月2日10時、6コート一斉に優勝をめざしての熱戦のホイッスルが吹かれた。

圧倒的強さの久留米工大附

男子Aゾーンでは昨年度優勝、また春の選抜大会を制覇し本大会の連続優勝をめざす久留米工大附属（福岡）が2回戦、来年度開催県の湯沢（秋田）、3回戦北陸（福井）、準々決勝松山北（愛媛）をスコアの示すごとく優勝候補筆頭の噂さにたがわず圧倒的な強さを発揮準決勝に進出。

Bゾーンでは選抜大会第3位と活躍した興南（沖縄）、過去9回優勝、10回目の優勝をめざす地元桜台、100余チームを代表して選抜大会につづき本大会出場の日体荏原（東京）、市川（千葉）と混戦が予想されたが、結果は市川が桜台を18対15、日体荏原を20対18と大接戦の末振り切り準決勝に進出した健闘は讃えるべきであろう。

Cゾーンでは県立岩国（山口）が、2回戦大分電波を破り選抜大会第3位の桃山学院（大阪）をおびやかすも、試合巧者の桃山学院が準々決勝へ、一方本年度国体開催の県立富岡（群馬）が瓊浦（長崎）に最後の最後まで喰いさがられからくも1点差で準々決勝に進出し、桃山学院と対戦するも固い守りがくずせず今一歩力及ばず敗退。

Dゾーンは氷見（富山）を中心に川口工業（埼玉）地元岡崎城西、県立宮崎南、と実力伯仲のチームがひしめくも過去3回2位に甘んじた氷見が県立川口工業、九州学院（熊本）、県立宮崎南を破り準決勝に進出、特にDゾーンは冒頭に記したように、九州学院対県立岐阜商業、県立氷見対県立川口工業の後半戦を、皇太子殿下・同妃殿下が御観戦とあって関係者、選手一同感激一しお。

日本ハンドボール協会副会長荒川氏、全国高体連ハンドボール部部長清水氏の説明で終始御熱心に御観戦いただき、選手のファインプレー、得点に際してはにこやかに拍手を送られるお姿は、本当に暑さをふきとばすさわやかな一時であった。

試合終了後、グラウンドにお降りいただき選手にお声をかけられる、選手諸君は、緊張のあまり返答も思うにまかせなかったが、千載一遇の機会にめぐり合せ、終生忘れることの出来ぬ青春の良き思い出となった。

準決勝久留米工大附属に対し、日体荏原を破り勢に乗る市川がいかにいどむか興味が持たれたが、厚い壁が破れず前半1点、一方久留米工大附属は甲斐の4点、主将坂田を始め5人で各1点とむらなく得点し大きくリード、後半に入り市川やや動きがよくなり川鍋、尾沼が巧みなシュートで5得点するも健闘及ばず涙をのむ。

一方桃山学院対県立氷見は、前半11対6と桃山学院がリード、後半県立氷見が奮起9対8と1点リードするも前半の5点差を縮めることが出来ず敗退。しかし、持味を十分に発揮、敗れたとはいえ善戦には好感が持てた。

決勝戦は場所を移し体育館で、選抜大会で経験ずみの久留米工大附属、桃山学院の対戦となる。桃山学院は春の雪辱を果たさんものと試合に望むも、個人プレー、チームプレーともに高校生ばなれした久留米工大附属に対し前半早くも7点のリードを許す。後半に入り桃山学院の動きが早くなり決勝戦らしい試合運びとなったが、久留米工大附属のパワーハンドボールの前に桃山学院のテクニックも通じず、久留米工大附属が2年連続、4回目の優勝の栄に輝いた。

選抜大会再現の優勝戦へ

女子Aゾーンは選抜大会を制覇した山陽女子（岡山）に明倫（神奈川）、過去3回2位に甘んじた熊本女子商業、県立羽生第一（埼玉）がいかに迫るか興味が持たれたが、熊本女子商業が県立羽生第一を破り準々決勝で対戦するも山陽女子の主将中嶋、GK山口を軸にした固いディフェンスが崩せず敗退。

Bゾーンは県立彦根西（滋賀）が国体強化の余勢をかり3回戦で静岡城北を破り、準々決勝にて県立三好（愛知）と対戦、県立三好は

男子優勝の久留米工大附属高の戦いぶり

選抜大会3位、ましてや地元とあって大いに健闘するも、後半ややスタミナ切れか動きに精彩を欠き11対7と姿を消す。

Cゾーンは選抜大会3位の県立岩国商業（山口）が2、3回戦と順当に勝ち準々決勝で本年度国体開催県の県立吉井（群馬）と対戦、前半県立岩国商業が3点をリード、2、3回戦の経過から逃げ切るかと思われたが後半県立吉井が調子をつかみ1点差まで追い上げ一進一退、息づまる試合となったが県立吉井は大事な場面でノーマークシュート、PTを落し惜敗。

Dゾーンは選抜大会第2位の地元名古屋短大付属を中心に昭和学院（千葉）名門小松市立商業を破り代表となった県立小松商業（石川）、夙川学院（兵庫）東京代表の藤村と激戦が予想されたゾーンであったが昭和学院と名古屋短大付属が抜け出し準決勝で対戦することとなった。

前半8対4とリードした名古屋短大付属は思わぬ猛迫にややあせりが見られ、攻、防ともに歯車が合わず遂に同点延長となる。第1延長1対1、第2延長3対3、ともに譲らず遂に初のPTC一投一投に大観衆は一喜一憂、2対0で名古屋短大付属がからくも逃げ切る。

猛暑の中、最後まで死力をつくした両チームの選手にはおしみない万雷の拍手が送られた。

準決勝、山陽女子対県立彦根西、連戦からの疲労蓄積か両チームともに動きにキレがなくミスが目立ち苦戦、残り2分で山陽女子が2点連取し決勝進出を決める。なかでも両チームの主将中嶋、久保田の健闘が目を引いた。

一方名古屋短大付属は大声援を背に県立岩国商業を突き放そうと頑張るも、前半8対8と同点、後半戦に勝敗がもつれ込む、後半に入り県立岩国商業に疲れが目立ち10分過ぎ、名古屋短期大付属稲垣のカットインからの2得点、ゴール右すみに決ったロングシュートで6連続失点と遂に力つきる。

決勝戦は選抜大会と同じ顔合せとなり、苦杯を喫した名古屋短期大付属は地元で一矢報いんものと闘志満々試合に望む。

前半山陽女子は石田、沖田を始めむらなく得点、また守っては早い帰陣でつけ入るすきを与えず1点を許すにとどめる。後半名古屋短期大付属が奮起、一波乱あるものと期待をつなぐも固い守りに手をやき3得点に終る。山陽女子は後半に入っても中嶋を軸に7人全員チームワークの乱れもなく15対4という誰も予想しなかったであろう大差で選抜大会に続き本大会初の優勝の栄冠を手中に納める。

選抜大会、本大会と優勝に導かれた古賀、片岡両先生は勿論のこと本大会出場をめざし自らを帰りみず日夜御指導くださった諸先生に深く敬意を表します。

本大会は一言でいって素晴らしい大会であったといえるだろう。

初めての皇太子殿下・同妃殿下の御観戦、環境の整備、施設の完備、手入れのとどいたグラウンド仮設スタンドの設置、6万数千人の観衆、大会期間中の好天、友情の県樹の贈呈、連日の猛暑にもかかわらず監督、審判の先生方の指導、好判定により大きな事故もなく救急車の要請0、等々枚挙にいとまがない。

本大会をお引受けいただいた豊田市、並びに同実行委員会、高体連、協会関係者の方々には本当に長い年月御尽力いただき感謝に堪えない。また地元高校生の皆さんのあの暑さの中各々の持場における献身的な努力こそが本大会を成功に導いた大きな要因であったと思う。本当に御苦労様でした。

終りにのぞみ豊田市の今後益々の御繁栄をお祈りし、関係各位の御努力に感謝申しあげ総評といたします。

昭和58年度全国高校総体
第34回全国高校選手権大会
戦いの跡 全記録、戦評
久留米工大附属〈男子〉 山陽女子〈女子〉が激戦を制す

8月2日から7日まで愛知県豊田市で開催された昭和58年度全国高校総体・第34回全国高校選手権大会は男子は久留米工大附属，女子は山陽女子と共に本命と目された学校が優勝を飾った。

〈男子〉

久留米工大付2年連続3度目の優勝

▽1回戦

県湯沢（秋田） 19（11－6、8－3）9 県岩井（茨城）

（得点）（湯沢）高橋3、伊藤6、長沢4、斉藤3、古山2、佐藤1（岩井）斉藤5、浜井1、小島1、相野2。

○…立ち上がり岩井のポストに落とすボールをカット、速攻で4－0と湯沢がリード。しかし、その湯沢もディフェンスのマークミスや単純なミスで岩井の追い上げを許し14分に6－6の同点。以降両チームのGKの好守で盛り上がったが、岩井の攻めが単調でディフェンス近くでのミスが多く湯沢の速攻を許した。また、湯沢の長身プレーヤーのロングも決まり5点差で前半終了。後半に入り両チームの動きは一層単調でコンビプレーよりワンマンプレーが多用される貧打戦。そんな中で相手ミスを速攻につなげた湯沢が岩井を圧倒した。（千野恒夫）

北陸（福井） 17（8－6、9－10）16 県坂出工（香川）

（得点）（坂出）渡里12、川崎2、青木1、山本1（北陸）村田5、大久保2、沢崎2、竹山3、福村4、川上1。

○…両チームとも激しく動き、フェイント、ポスト、サイドと同じようなパターンで攻めるが、両チームともGKの好守でなかなか加点できない。しかし、前半15分過ぎから坂出に疲労が出て動きが鈍くなったところを北陸が3点を連取、主導権を握って8－6で前半終了。後半に入っても北陸はシャープに動き勝利を不動のものとし、20分過ぎに雑な攻撃となって坂出の追撃を受けたものの辛くも逃げ切った。（大塚文雄）

県松山北（愛媛） 17（11－7、6－7）14 県四日市工（三重）

（得点）（四日市）服部3、伊藤5、菊地2、西村3、鈴木1（松山）山本1、石丸8、門田2、野田3、白石2、古茂田1。

○…初戦のためか両チームとも立ち上がり堅くなり攻めに難が見られたが、粘った松山北が先行、四日市ディフェンスの棒立ちをついた松山北の中央攻撃が成功したもの。これに対し、四日市の速攻時のつめの甘いシュートが目立った。後半中だるみで、両チームとも単発シュート、凡ミスが続き、結局前半リードした松山北が逃げ切った。ただ残念なことに、高校

生らしい活発なプレーが見られなかった。（幸田末之）

県青森商（青森）17（9－4、8－8）12 県日川（山梨）

（得点）（日川）雨宮1、野沢1、飯島1、大森3、原田2、植原2、小池1、本間1（青森）柳谷聡3、山野5、小笠原4、室谷2、長洞1、柳谷秀2。

○…立ち上がりは両チームとも堅さが見えたが、日川は足を使い青森商は山野のロングを中心に得点を重ねる。日川もよく頑張ったが及ばなかった。（藤原利一郎）

星陵（静岡）25（15－9、10－6）15 県神埼（佐賀）

（得点）（星陵）大井4、飯島2、細谷2、本田2、佐野3、渡辺12（神埼）徳川1、牟田文7、平方4、平方九2、大沢1。

○…前半星陵ディフェンスの弱点をつき神埼も善戦したが、前半終了近く神埼の攻撃ミスから連続得点した星陵がペースを取った。後半も神埼の攻撃ミスが多く、星陵に速攻のチャンスを与え楽をさせた試合であった。（久保田龍治）

東山（京都）24（10－8、14－11）19 県大石田（山形）

（得点）（大石田）長沢7、岸田3、高橋4、富樫1、小玉2、小田島2（東山）城3、酒井3、百成4、高尾4、滝本1、後藤8、前原1。

○…両チームとも0－6（一線）ディフェンス、ダブルポストの攻めと守り。きびきびした動きでスタート、東山は後藤のサイドからの巧いシュート、大石田は長沢のミドルなどで互角にわたり合ったが、大石田の岸田のつまらないGKへのファウルによる退場の間に東山は2点を連取、さらに20分過ぎやや暑さでスピードの落ちた大石田の戻りの遅れをついて東山が2点リードで前半を終了。

後半、ディフェンスのフットワークの落ちた大石田のスキをつき百成のポスト、高尾のミドルなどで差を広げ、中盤暑さに苦しみながらも岸田、長沢のロングなどで頑張る大石田を振り切った。勝った東山もPTの確率の悪さが気になった。（森　敏郎）

県松江工（島根）22（10－4、12－3）7 県柏崎（新潟）

（得点）（松江）菅田3、森脇7、井上1、金崎4、松本3、渡部1、三島1、永谷1、堀内1（柏崎）木村1、江部2、須田1、田辺1、泉1、春日1。

○…両チームともに良く動いていたが、柏崎のシュートが少し甘く、松江工の速攻が得点に結びつき10－4で前半終了。後半も柏崎のミスから速攻で押しまくり、開始5分程で試合を決めたようである。柏崎も最後まで良く頑張ったが、決め手がないのが残念であった。（半田忠）

道上磯（北海道）17（9－8、8－6）14 県倉敷天城（岡山）

（得点）（倉敷）山本1、丸山7、新谷1、忠田1、鳥越2、近藤2（上磯）畑沢5、酒井4、川井2、黒萩1、外山1、堀江4。

○…両チームとも力の似通った対戦となり、前半は上磯が速攻、ペナルティ、ポストなどで得点、一方天城も丸山のフェイントからのシュート、速攻で追いすがり、1点差で前半終了。

後半に入っても上磯は相手のシュートミスからの速攻で得点、天城はシュートを打つがGKの好守に阻まれ1点差がつまらず、残り5分より上磯の最後の踏んばりに勝機を逃がした。試合を見て言えることは、最後のシュートが雑であり（両チーム）、GK堀の守りが上磯に勝利をもたらした。（田嶋靖夫）

聖光学院（福島）10（7－6、3－3）9 県石橋（栃木）

（得点）（石橋）粕谷2、中田2、藤森4、吉田1（聖光）岡崎4、円谷1、渡辺3、武田1、佐藤1。

○…立ち上がり聖光はサイドシュート、ポストプレー、速攻と確実に得点を決める。一方、石橋は立ち上がり技に乗れず、10分に中田がカットインから点を決め調子づく。中盤は逆に聖光の攻めが雑になり、前半は1点差で終わる。

後半に入っても両チーム動きが悪く、内容の薄い試合だった。（九田秀夫）

大分電波（大分）26（13－5、13－7）12 県屋代（長野）

（得点）（屋代）西村延3、近藤4、小口4、島田1（大分）後藤4、足立3、児玉3、朝来6、小池4、朝生6。

○…両チームとも動きが重く、ボールも手につかず得点に結びつかない動きのくり返しであったが大分が早く立ち直り、ボールが早く回り出し児玉のロングで先行。他のプレーヤーも良く得点に持っていった。後半屋代の反撃を期待したが、暑さに負けたのか動きが悪く、攻撃も単調で点差が開くばかり、ワンサイドゲームであった。（松尾勝也）

県小松工（石川）20（10－6、10－5）11 県高島（滋賀）

（得点）（小松）福田4、石崎1、中松5、有村5、古谷5（高島）伊吹1、坂本2、桑原1、田中5、万木1、西川1。

○…両チームとも速攻は特に見られず、セットを主としたチームであったが、後半14分、高島がペナルティをはずしたのを境に小松ががぜん生気を取り戻し、着々と得点を重ねて振り切った。（大橋昭重）

仙台育英（宮城）20（9－7、11－11）18 尾道（広島）

（得点）（育英）吉川1、守谷5、五島4、菅井4、日下2、神谷4（尾道）三輪2、栗根6、松山2、細島4。

○…両チームとも大型選手はおらず、得点も速攻、セットともにつなぎからのカットインによるものがほとんどであった。前半なかば尾道・松山の退場からペースをつかんだ育英は6連続得点し、主導権を握った。しかし、尾道も育英がシュートミス（尾道GKの好守）をくり返す間に反撃、2本のPTなどで前半を9－7、育英リードで終わる。

後半20分、尾道は5点差をつけた育英の足がとまったところを速攻で3点連取、さらにポスト、サイドで23分1点差まで追い上げた。しかし、ここで両チームラインクロス、チャージなどでチャンスをつぶし合い、最後は育英・守谷がとどめをさした。（川島克之）

県宮崎南（宮崎）25（11－8、14－5）13 県境（鳥取）

（得点）（宮崎）本部5、木村2、春山3、田中5、安井2、池下4、野田4（境）清水2、阿部2、足立3、松本3、角3。

○…前半中盤までは両チームのGKの固い守りでなかなか得点ができなかった。その後、宮崎南は相手のミスからの速攻で、境はカットインプレーで加点、11－8と宮崎南のリードで前半終了。

後半、境は出だしから暑さに負

け全くバテてしまい、宮崎南は得意の速攻を主体に相手を引き離す。両チームの練習量の差が出た試合だった。（小山哲史）

岡崎城西（愛知）34（14—2／20—5）7 県高知追手前（高知）

（得点）（岡崎）吉見6、柴田2、草野1、中島4、宮崎6、酒井6、井上3、堀5、赤松1（追手前）山崎3、石井1、川村1、川上2。

○…岡崎城西のディフェンスがGKを中心によくまとまり、追手前のストーリングを誘って速攻を生かし、前半を14—2とリード。後半に入っても城西はリズムに乗り一方的に走りを入れ加点した。追手前は攻撃が中央に片寄り、単調で城西の速攻ペースにはまった。城西はノーマークシュートを度々はずし、今後の試合に課題を残した。（岩永重之）

県岐阜商（岐阜）22（11—6／11—9）15 県池田（徳島）

（得点）（池田）加藤2、山下6、高井2、黒木2、平尾3（岐阜）安江5、二宮4、豊田2、榊間1、山口4、牧田6。

○…立ち上がりはお互いに相手の様子を見て5分間は1点ずつの内容であった。次の10分まではセットからポスト攻撃で互いに1点をあげたに過ぎずミスの連続であった。池田もその後ロング、ポストでリードするも県岐阜商・二宮の速攻をきっかけに山口のロングシュートでじりじりと点差をつけ11—6で前半を終わる。

後半立ち上がり5分、池田も頑張って攻撃するも早いディフェンスのつぶしにあいなかなか加点できない。県岐阜商は安江、二宮の速攻と山口、牧田のハーフ速攻セットからのロングシュートが決まり試合を決定づけた。（永田裕孝）

県氷見（富山）21（11—12／10—7）19 県花巻北（岩手）

（得点）（花巻）阿部3、髙橋衛8、髙橋健2、雫石3、伊藤1、菅谷2（氷見）岩上4、前山7、堀川2、山本3、吉木3、春木2。

○…開始2分、氷見がロングシュートで先取点、花巻北も速攻で同点とした。その後両チームともよく走り交互に得点をあげやや氷見が有利に試合を進めたが、20分頃氷見に続けてパスミスがあり逆速攻で花巻北がリードして前半を終了。

後半に入って氷見に退場者が出たが花巻北はリードを広げることができず、逆に氷見・前山のロングで逆転、リードを奪う。その後は前半と同じく両チームとも素晴らしい攻防を見せたが、残り2分花巻北に退場者があり、氷見が得点をあげ2点差で氷見が勝った。素晴らしい内容のあるゲームであった。（秋山幸生）

▽2回戦

久留米工大附（福岡）23（10—4／13—7）11 湯沢

（得点）（久留米）片山5、甲斐2、野中1、永松3、村田5、坂田4、中西3（湯沢）伊藤2、長沢4、斉藤3、佐藤2。

○…両チームとも動きにスピードがない攻撃の中で、久工大附はコンビよりポスト攻撃を多用、着々とポイントするが、一方湯沢は久工大附のディフェンスを崩せず単調な攻めとなり苦戦、6点差で前半終了。

後半に入っても、久工大附は着々とポイントを重ね大差がついた。湯沢は、最後までディフェンス面においても前へのつめができず、ポストプレーを防ぐことができずに敗れた。（中根武彦）

北陸 23（11—8／12—7）15 西宮市立西宮東（兵庫）

（得点）（北陸）村田4、大久保4、沢崎3、竹山4、福村6、川上2（西宮）赤瀬1、石橋5、横山3、松崎4、中田2。

○…両チームとも攻撃はセットプレーを主体としているが、前半北陸・村田、竹山のサイドのコンビネーションによりリードを奪う。後半17分、西宮・石橋に続き宮前も退場し、その間に得点を重ね北陸がふり切った。（大橋昭重）

県松山北 19（9—10／10—7）17 県隼人工（鹿児島）

（得点）（隼人）上松2、荒田1、鈴2、坂口2、窪田9、山口1（松山）山本4、石丸5、井手1、門田1、野田4、白石1、沖永3

○…隼人工の得点でスタート、しかし続いて松山北が得点、両チーム互角で前半終了。両チームともにディフェンス、オフェンスのバランスがとれ、同型戦チームの戦いを展開。後半に入り松山北・山本が連続得点して逆転、松山ペースで進む。隼人工も窪田の活躍で追い上げたが今一息届かなかった。松山北の沖永、山本といった小さいプレーヤーの後半の活躍が目立った。（岩永重三）

県青森商 20（8—8／12—8）16 県添上（奈良）

（得点）（青森）柳谷聡4、山野2、小笠原6、室谷5、長洞1、柳谷秀2（添上）日向8、野田1、森本2、橋本4、乾1。

○…大型選手の歩幅の大きさと打点の高さで攻める青森に対して、小型揃いの添上は左右サイドと中央部の3カ所にできる三角コンビを迷彩に使い対抗した。前半8—8は、添上GKの7度にわたる好守が原因であった。後半に入って20分までは完全なシーソーゲーム、実力は全くの伯仲である。残り3分のとき、青森は（大足幅×歩数）対（多歩数×足幅）において

優った速攻で1点を先取し、続いて2点、3点と差をつけ大熱戦に勝利を収めた。（新井節男）

名古屋市立桜台（愛知） 25（10−9, 15−6）15 星陵

（得点）（桜台）津兼5、平松2、加藤4、三輪1、山下3、塩坂7、舘本2、山田1（星陵）大井4、飯島1、細谷2、本田2、佐野2、渡辺4。

○…前半は、桜台の横のズラシによるポストプレー、それにサイドシュート、速攻、星陵の速攻、ロングシュート、遅攻と互角の戦いで1点差で後半を迎える。

後半の立ち上がり6分間、桜台の速攻、ポストプレーが決まり5点差。ここで星陵攻めきれなくなり、桜台の攻撃が続き勝負を決めた。桜台の方が一枚上の技を持っていたように思う。（九田秀夫）

市川（千葉） 19（9−5, 10−6）11 東山

（得点）（東山）城2、香西1、酒井2、高尾2、滝本1、後藤3（市川）新地3、矢吹1、勝又7、湯浅1、川鍋5、尾沼2。

○…市川が前・後半ともに試合開始10分間に連続して加点、東山に圧勝したゲームである。東山は長身の市川のディフェンスの壁をクロスプレーにて崩し攻撃をするけれども、カットインの動きの足がボールについて行くことができず、ディフェンスの前にて単純に散発的シュートになる。市川・勝又の速攻への走り、カットインよりのシュートが特に目立った。（村井輝邦）

日体荏原（東京） 25（13−7, 12−9）16 県松江工

（得点）（荏原）林6、根本1、吉田4、横堀1、明石8、長原4、佐藤1（松江）菅田1、森脇7、井上1、金崎5、松本1、渡部1。

○…立ち上がり両チームとも動きが鈍くペースに乗れないところを、総合力に勝る日体荏原はディフェンスを固めて速攻で先手を握る。一方、松江工もよく動き、カットインでパスをつなぎ得点する。荏原・林の好リードで前半13−7で終了。

後半に入り荏原GKの好守もあり、速攻で着々と加点し主導権を握る。松江工もよく健闘したが、荏原の厚い壁は破れなかった。（斉藤実）

興南（沖縄） 34（16−7, 18−8）15 道上磯

（得点）（上磯）畑沢3、酒井3、川井2、黒萩4、外山1、堀江2（興南）松川2、宮里4、伊波1、宜保10、瀬底3、上原1、比嘉2、玉城善5、玉城浩3、宮城3。

○…両チームとも一線防御とダブルポスト攻撃でパターンもよく似たチームであるが、上磯はパスミス、オーバーステップ、チャージなど雑な攻撃に加えシュートにも決め手がない。一方興南は、相手のミスから速攻、カットイン、サイドシュートなど多彩な攻撃を展開、リズムに乗って前半一方的なゲーム展開となる。後半、上磯はセンタースリー攻撃に変え反撃に出るが力及ばず。興南は終始すばしっこい動きで上磯を圧倒した。（前川和三）

桃山学院（大阪） 26（15−7, 11−11）18 聖光学院

（得点）（桃山）仙山5、井内5、大原1、納6、埜田3、野田4、高川1、小林1（聖光）高橋5、長沢1、斉藤6、藤原2、松田1、斉藤3。

○…立ち上がり桃山は中央のクロスから左腕・納が連続ミドルを決めて好調なスタート。聖光は高橋、長沢のサイドで返すが、桃山のスピードある動きからのサイド、ポスト、速攻を止めることができず、15−7で前半を終わる。

後半5分10点差としたところで桃山はメンバーを替えたが、このあたりから聖光にも速攻が出るようになり5分にわたり合った。しかし、前半の8点差は大きく、懸命に追いかけるが差をつめることができなかった。（川島克之）

県岩国（山口） 19（8−8, 11−7）15 大分電波

（得点）（大分）足立7、児玉2、朝来9、和田1、朝生2（岩国）上野2、森川2、土井4、横田4、高崎6、斉藤1。

○…大分の朝米のカットインからの得点で始まった前半であるが3分にも児玉のミドルでリード、岩国は4分に森川のミドルでようやく初得点。しかし大分は着実に得点を重ね、守ってもGKを中心によく守った。12分たって6−1、岩国は森川がマンツーに合い、やや攻めが単調になったようだ。17分、岩国が速攻を決め3−6、その頃から大分は動きが止まり、続けて19分横田が決めたあたりから速攻が出始めて23分には7−7と追いついた。

後半に入り6分、大分が速攻で12−10、直後岩国のミドルで1点差。しかし、15分には岩国16−13と逆転して、大分は追い上げたが最後には力負けした。（工藤庫夫）

瓊浦（長崎） 20（8−9, 12−8）17 県小松工

（得点）（瓊浦）畑地8、田中4、末岡1、村山5、藤井2（小松）福田7、石崎1、青山2、中松4、有村2、古谷1。

○…立ち上がり小気味良いミドルシュートを連発してリードした瓊浦は、小松のしつような食い下がりに苦しんだが、後半8分過ぎの連続速攻で2点のリードを奪いそのまま逃げ切った。両チームともよく訓練された好チームであったが、暑さのためかやや集中力を

欠き、後半10分過ぎ頃からはミスも目立った。小松工はよくボールをキープし粘り強い攻防を展開したがつめの甘さが敗戦を招いた。（岩本晃寿）

県富岡（群馬）17（10—8、7—6）14 仙台育英

（得点）（育英）吉川2、守谷6、五島1、菅井2、日下2、神谷1（富岡）浅香1、下川2、小金沢3、上原2、柴田5、岡野4。

○…両チームともに走力、ボールコントロールが非常に良く、ゲーム終了直前まで勝敗がむずかしい試合であった。前半の立ち上がり5—1とリードをした富岡がゲームの主導権を取ると同時に、動きに少し差があったようだ。仙台育英もカットイン、ポスト、速攻と数々の攻撃すれど、富岡のディフェンス、GKに得点を妨げられる。残り10分に富岡の動きが単純になり、育英に1点差とされたが逃げ切った。（村井輝邦）

県宮崎南 21（12—9、9—11）20 横浜商工（神奈川）

（得点）（横浜）佐藤4、堀川2、未武4、飯田1、斉藤7、呉座2、（宮崎）木部2、春山7、田中2、安井3、池下3、野田4。

○…両チームともポスト、サイドあるいは速攻と多彩に攻撃するが、ロングシュートとGKで宮崎南が一歩リードする。しかし、後半11分過宮崎南の春山がマンツーマンにつかれるとペースがくずれ横浜商工が18分過ぎに追いつく。しかし、最後宮崎南はPTを獲得勝利を得る。両チームとも最後までよく走り好試合であった。（小山哲央）

岡崎城西 28（14—8、14—7）15 県笠田（和歌山）

（得点）（岡崎）吉見9、柴田5、草野1、中島1、宮崎1、酒井9、井上2、（笠田）蜂木2、花田4、前中1、津川7、野口1。

○…岡崎城西の速い動きに笠田は付き切れず一方的にリード、14—8で前半を終了。後半に入り、城西ややリズムがくずれ得点を入れても、笠田の得点を許し前半の得点差のまま15分過ぎたが地力に勝る城西は、残り10分から点差を開き一方的に押し切った。（浅田邦雄）

九州学院（熊本）21（11—5、10—10）15 県岐阜商

（得点）（九学）緒方6、富永4、瀬下2、水口3、佐藤2、藤木4（岐阜）安江1、豊田2、榊間4、山口3、牧田5。

○…両チームとも決め手を欠き遅い試合展開となった。前半15分過ぎ、九州学院はPTを得、それを決めるとが然調子が出、フリースローからのフォーメーションも決まり、それ以後の県岐阜商の得点をシャットアウトし大勢を決めた。後半、県岐阜商は必死に追い上げたが、前半の失点が痛かった。（板倉孝雄）

県氷見 13（6—5、7—5）10 県川口工（埼玉）

（得点）（氷見）岩上3、前山5、山本2、吉木1、春木2（川口）村田2、鈴木1、粕谷2、吉原3、阿部2。

○…両チームともフィールド・プレーヤーを使い、同じようなゆっくりした攻め合いが続いたが、氷見が先制して4—1とリード。川口工が速攻を混えて得点、19分には逆転。しかし、氷見も良く頑張って再度逆転し6—5で前半を終了。後半も前半と同じように氷見が3点を連取、その後一進一退が続いたが、なかなか動きが続かない川口工に対し氷見は確実に得点し、最初のリードを保ち勝利をものにした。（新木康稔）

▽3回戦

久留米工大附 34（19—6、15—7）13 北陸

（得点）（久留米）片山7、甲斐6、野中4、永松3、村田2、坂田7、久保山2、中西3（北陸）村田1、辻永1、宮崎1、大久保3、竹山1、福村3、川上3。

○…北陸は大久保、福村を中心に攻撃するが、久留米工大附のディフェンスが強く得点に結びつかず速攻の機会を作る悪循環が続いた。ディフェンス、シュート力ともに久留米が大きくリードし、力の差を見せつけたゲームだった。（久保田龍治）

県松山北 24（13—6、11—11）17 県青森商

（得点）（松山）山本1、石丸1、井手3、門田3、野田8、白石7、古茂田1（青森）柳谷聡3、山野4、小笠原4、室谷3、長洞2、柳谷秀1。

○…開始早々、中央からロングで松山北が先取点をあげ、相手の動きの悪さからミスが続き速攻するが連続してGKの好捕に会い得点できず。5分過ぎ青森商もやっと1点返すがペースがつかめず、その後ディフェンスのチェンジの悪さからポスト、カットイン、ロング、更にミスから逆速攻で走られ、前半を終わって7点差で松山北が有利に進める。

後半に入って青森商がペースをつかみ追い上げるが、大切なところでディフェンスの悪さとミスが重なり、前半の差をつめることができなかった。（中根武彦）

市川 18（9—6、9—9）15 名古市立桜台

（得点）（桜台）津兼1、平松4、加藤3、三輪3、塩坂4（市川）新地3、矢吹6、勝又4、川鍋3、尾沼2。

○…立ち上がり桜台攻撃ミスより市川先取、3—0までゆくが、桜台のセット攻撃がスピードとコンビが合い追いすがるが、一方市川も速攻で加点、接戦となる。互いに歯切れのよいクリーンなディフェンス、スピードある攻撃と見応えのあるゲーム展開になるも終始市川リードのうちに3点差で前半を終了。

後半すぐにフォーメーション、フェイント攻撃して2点市川が連取、一方桜台も速攻、セット攻撃で応戦、6分過ぎ桜台1点差と迫いシーソーゲームとなる。10分に桜台同点とする。その後一進一退をくり返すが、市川残り3分、速攻、スカイプレーで2点差にするも桜台も速攻で追う。残り1分市川ダメ押しのロングに速攻で勝敗を決した。（秋山幸生）

日体荏原 24（15—11、9—11）22 興南

（得点）（荏原）林12、吉田3、明石3、明石8、佐藤1（興南）宮里8、伊波2、宜保6、瀬底2、上原4。

○…興南のダブルポスト攻撃に対し日体荏原はセンタースリーで攻撃。開始早々荏原・林のロングで先取すると興南もカットインからPTを誘い同点。終始両チームとも足をよく使った好ゲームになる。荏原は林、明石のロングで加点していくと興南は宮里をリードマンとしてカットインプレーで食い下がり一進一退のゲーム展開。13分過ぎ足の止まった興南のすきをついて荏原が4点連取し前半を

終了。
後半開始、興南・瀬底、宮里の連続得点で荏原にしつように食い下がり、前半同様一進一退のゲーム展開になるが、前半の荏原のリードが勝利につながったが、興南の宮里のプレーが良く光っていた。（前川和之）

桃山学院 19（10－7，9－8）15 県岩国
（得点）（桃山）柚山5、井内3、大原4、納4、埜田2、野田1、（岩国）上野2、森川4、土井6、横田2、斉藤1。
○…互いにセット攻撃から加点シーソーゲームとなる。15分まで6－6。そこで岩国の森川に桃山マンツーマンに出る。次第に岩国が攻めあぐむ間に桃山速攻、セット攻撃がリズムに乗り3点差をつけて前半終了。
後半も互いに譲らず接戦となる。9分過ぎには岩国1点差とつめよる。両チームともオフェンス、ディフェンスとも互角、激しい攻防がくり返されるが、桃山が要所要所でポイントをかせぎ岩国の追撃をふり切った。（秋山幸生）

県富岡 18（9－8，9－9）17 瓊浦
（得点）（瓊浦）高田1、畑地4、末岡1、村山7、藤井3、西1（富岡）下川4、小金沢3、上原1、柴田、松原3、岡野4。
○…前半の富岡はスカイプレー、速攻ステップと技巧プレーを発揮すれば、瓊浦は速攻、ロングと切れ味の良いプレーを展開し互角の戦いであった。富岡やや優位の試合展開、後半になって富岡は瓊浦の畑地にマンツーをつけた。一方瓊浦のディフェンスは富岡の攻撃を良く読み、10分以後5分間ノーゴールに押えた。最後まで目を離せない好ゲームであった。（杉本真一）

県宮崎南 19（13－9，6－8）17 岡崎城西
（得点）（城西）橋本1、吉見7、宮崎6、酒井1、井上2（宮崎）本部4、春山4、田中3、安井3、池下3、野田2。
○…岡崎城西の動きが重くボールが上手に回らず、また、シュートも宮崎南のGKに好守され加点できなかったが、18分7－7と同点とする。その後再び宮崎南がリード、4点差をつけて前半を終了。後半、宮崎南は個人プレーでボールキープし攻撃時間を保持する戦法で確実に加点、一方岡崎城西は吉見の速攻で追い上げたが、宮崎南GK池宮が好守、2点差で逃げ切った。（杉本真一）

県氷見 24（12－8，12－7）15 九州学院
（得点）（氷見）岩上4、前山4、堀川2、山本3、大伴1、吉木3、杉本1、森3、春本3（九学）緒方3、富永3、水口3、佐藤4、藤本2。
○…先取点は開始15秒、氷見があげたが、両チームともよく走り、前半終了間ぎわまでシーソーゲームを展開し内容のあるゲーム。前半は氷見の4点差で終了。後半に入って脚力に勝る氷見が走りまくり得点を重ねるとともに、ベンチ入りしている選手を巧く使い、元気のない九州学院を突き離した。（中根武彦）

▽準々決勝

久留米工大附 24（8－7，16－5）12 県松山北

得	【久工大】		【松山】	得
0	秋吉	GK	吉川	0
0	坂本	GK	大野	0
7	片山	FP（審・菅野・半田）	石丸雅	0
1	甲斐		山本	1
5	野中		石丸陽	5
4	永松		井手	0
2	村口		門田	0
0	樋口		野田	3
5	坂田		篠原	1
0	森下		白石	2
0	久保山		長野	0
0	中西		三浦	0
24	(1)	PT	(1)	12

○…松山北はボールをじっくり回しスローペースでの攻撃展開、野田のロングシュートやポストシュートで加点、一方久留米もひとつリズムに乗れず苦しんだがポストシュートなどで得点をあげる。
前半互角のゲームの流れであったが、後半に入ると久留米のディフェンスが松山のオフェンスをしのぎ、速攻へつなぐ。
また、セットオフェンスでも足の止まった松山のディフェンスをポスト攻撃主体にポイントし、10分過ぎには6点差となり久留米ペースをつかむ。一方松山北は久留米の高いディフェンスの壁を崩せず、単発的に加点するにとどまり一方的なゲームとなる。
結局総合力に勝る久留米の順当勝ち。（秋山幸生）

市川 20（9－9，11－9）18 日体荏原

得	【市川】		【荏原】	得
0	平松	GK	大原	0
0	早乙女	GK	花本	0
7	新地	FP（審・小山・岩本）	林	3
0	清瀬		吉田	2
1	井上		横堀	0
4	矢吹		真野	5
0	立元		明石	6
4	勝又		長原	1
0	湯浅		渡辺	0
4	川鍋		福田	0
0	能勢		佐藤	1
0	尾沼		金井	0
20	(4)	PT	(2)	18

○…互いによく相手を知っているせいか両チームとも慎重な立上がりから日体荏原がPTで先手を取り、その後も得点を重ね6－1とリード。
やや攻めあぐんでいた市川は、中盤から積極的に追い上げ、終盤は全く逆のペースとなり9－9の同点で前半終了。
後半も日体荏原はポスト、サイドで3点差をつけたが、その後のペースは市川へ。
終盤は要所をフォーメーション、速攻などで得点、GKのファインプレーもあって、市川が逃げ

切った。
　日体荏原のディフェンスのつめ、読みの甘さが、攻撃力を生かせなかったように思われる。（森敏郎）

桃山学院 20（10−5 10−7）12 県富岡

	【桃山】	得	【富岡】	得
GK	政田	0	清水	0
GK	浅沢	0	斉藤	0
FP	杣山	6	浅香	0
FP	井内	5	下川	0
FP	大原	3	小金沢	2
FP	納	1	上原	1
FP	埜田	2	辰岡	0
FP	野田	3	柴田	5
FP	戸田	0	松原	1
FP	浜野	0	矢野	0
FP	福田	0	岡野	3
FP	小林	0	加藤	0
PT	(2)	20	(1)	12

（審・福田、松尾）

○…桃山の杣山、井内、富岡の柴田、小金沢の得点で互角にわたり合うが、富岡の中央へ中央へ早いローリングオフェンスも桃山の守りを広げるに至らず、苦しい展開を余儀なくされる。後半に入っても同様の様相を呈して富岡に進展が見られず、桃山にロングシュートに決め手がある分有利に試合を進める。
　お互いに早い動き、切れの良いシュートと気持の良い好ゲームであった。（横井保信）

県氷見 18（8−6 10−6）12 県宮崎南

○…両者固い出足から10分を過ぎて宮崎南が速攻で4−1とリードを奪った。ところが、19分氷見の退場でかえって足が止まり、逆に氷見にリードを許した。後半立ち上がり、氷見の速攻で勝負は決ったかと思われたが、宮崎南はしつように食い下がり追い上げたが、エース春山の疲労の色濃く、今一歩及ばなかった。（岩本晃寿）

	【氷見】	得	【宮崎南】	得
GK	桜打	0	池宮	0
GK	山田	0	黒木	0
FP	岩上	3	本部	1
FP	前山	5	木村	0
FP	堀川	2	黒木	0
FP	山本	1	春山	1
FP	大伴	0	田中	3
FP	北山	0	荒武	0
FP	吉木	4	安井	3
FP	杉本	1	池下	4
FP	森	0	野田	0
FP	春木	2	中園	0
PT	(2)	18	(2)	12

（審・川島、森）

▽準決勝

久留米工大附 22（13−8 9−1）9 市川

	【市川】	得	【久工大】	得
GK	平松	0	秋吉	0
GK	早乙女	0	坂本	0
FP	新地	0	片山	4
FP	清瀬	0	甲斐	8
FP	井上	0	田中	0
FP	矢吹	0	野中	2
FP	立元	1	永松	3
FP	勝又	1	村田	2
FP	湯浅	0	樋口	0
FP	川鍋	5	坂田	2
FP	能勢	0	森下	0
FP	尾沼	2	中西	1
PT	(1)	9	(1)	22

（審・川島、森）

○…市川は多彩なフォーメーションプレーを駆使するが、前半は久留米工大附の厚い壁を突破できず苦戦するが、後半は軽業的プレーが成功する。
　久留米工大附は一試合を通して良く足が動き、速攻、セットと着々得点を重ねる。両チームとも一生懸命プレーし好感が持てた。（小山哲史）

桃山学院 19（8−9 11−6）15 県氷見

	【氷見】	得	【桃山】	得
GK	桜打	0	政田	0
GK			浅沢	0
FP	岩上	2	杣山	10
FP	前山	3	井内	1
FP	堀川	0	大原	5
FP	山木	2	納	3
FP	大伴	0	埜田	0
FP	北山	0	野田	0
FP	吉木	3	戸田	0
FP	杉本	1	浜野	0
FP	森	1	高川	0
FP	春木	3	小林	0
PT	(1)	15	(3)	19

（審・三枝、大塚）

○…桃山は固い守りと両サイドの活躍で氷見を全く寄せつけず快勝した。
　今大会杉本とGK桜打を中心とした対応力に満ちたディフェンスとボール駆使の巧みさで勝ち進んできた氷見ではあったが、桃山のスピーディなサイド、ポスト攻撃を防ぎ切れず失点を重ねた。
　一方攻撃も得点のローリング攻撃が中央へ中央へと片寄り、桃山の守りを崩すに至らなかった。終盤になって氷見は本来のリズムを取り戻しディフェンスもオフェンスも頑張り懸命に追撃したが、その点に伝統校の誇りとさわやかさを感じた。（岩本晃寿）

▽決勝

久留米工大附 26（15−3 11−4）7 桃山学院

	【桃山】	得	【久工大】	得
GK	政田	0	秋吉	0
GK	浅沢	0	坂本	0
FP	杣山	1	坂山	7
FP	井内	3	甲斐	5
FP	大原	1	野中	1
FP	納	2	永松	3
FP	埜田	0	村田	1
FP	野田	0	樋口	0
FP	戸田	0	坂田	8
FP	浜野	0	森下	0
FP	安達	0	久保山	0
FP	小林	0	中西	1
PT	(0)	7	(4)	26

（審・川島、森）

○…長身者をずらりと揃えパワフルな動きの久留米工大附対テクニシャン揃いの桃山の対戦は、前半は桃山のスローペースでゲームが進み10分まで久留米2−0でリード。
　しかし、10分を過ぎた頃より久留米本来の速い動きで豪快にシュートを決めペースをつかむ。
　一方桃山はゆっくりとした攻め、ブロック、フェイントで隙をうかがうか、長身190cmのGK秋吉に阻まれて、前半11−4と久留米リードで終了。
　後半に入り桃山のペースが早くなり、内容も決勝らしく面白くなって来たが、久留米のパワーハンドボールの前に桃山のテクニックも通せず、26−7で久留米工大附が2年連続で高校総体を制した。（大塚久雄）

＜女子＞

山陽女子12年ぶり2度目の優勝飾る

▽1回戦

明倫（神奈川）9（3－4／6－3）7 県添上（奈良）

（得点）（添上）辰己1、福本3、金沢1、南山1、岡村1（明倫）高橋1、生沢1、永井1、梅原3、渡辺3。

○…前半、互いに動きが合わずシュートミス、キャッチミスが目立った。8分過ぎ明倫のロングに対し、添上は13分過ぎから速攻とポスト攻撃で加点した。後半高さと幅のある明倫のディフェンスに添上は攻めあぐみ、つまらないミスから速攻にあった。また、明倫はポストに長身者を生かした事と左からの攻撃で加点した。両チームとも走りが不足しているようである。（菅野肇）

仁愛女（福井）15（6－2／9－2）4 県境（鳥取）

（得点）（境）松下1、松永1、高島1、阿部1、（仁愛女）石本2、山崎2、北川1、石田3、大角6、吉井1。

○…両チームとも初戦のためか固くなり攻撃リズムがなく、パスミス、キャッチミスが多く苦しいスタートとなる。その中で仁愛女は大角のロング、相手のパスミスからの速攻で6点をとりリードする。一方境は、パスミスが多く、また攻撃も単調でチャンスがなくパスカットとポストで2点にとどまる。

後半境が先取、良い出足かと思われたが、仁愛女は2分から6分まで、1分ごとに得点、5点を連取、境を突き離した。（旅逸郎）

熊本女商（熊本）13（7－5／6－5）10 県粉河（和歌山）

（得点）（粉河）宮谷1、岡山1、辻本3、森下5（熊本女）立石4、寄田5、中野2、奥田2。

○…両チームとも開始は身体がかたく、パス、ショートミスが目だった。熊本女先取点を上げ、前半10分にて粉河のパス、ディフェンスミスをつき5対1とリードをする。その後粉河森下が頑張り前半2点差にて終了。後半熊本は、10分までよく走りゲームの主権をとり一方的に試合を進めるように見えたが、残り5分熊本の足がとまり、相手粉河にパスカットを許し加点され、また、ストーリングより攻撃を許す。両チーム今一歩の走力がほしい。GKの好守が特に目だった。

羽生第一（埼玉）19（7－5／12－3）8 県高松（香川）

（得点）（高松）友沢2、山本1、河野5（羽生第一）江原2、鈴木7、石井5、小林2、地主嗣1、岡村1、木元1。

○…羽生は前半より鈴木を中心に足を使ったパワーのある攻撃で確実に得点する。一方高松は河野を中心に得点するがややスピードに欠け羽生におよばなかった。（藤原利一郎）

県彦根西（滋賀）12（4－4／8－4）8 県栃木女（栃木）

（得点）（栃木女）佐山1、塩谷1、川合1、相川4、名塚1（彦根西）久保田8、奥山2、小幡2

○…両チームとも大会第一戦の為硬い動きで始まったが、早く硬さのほぐれた栃木がリードし中盤をむかえたがリズムの止った栃木に対し、ジリジリ彦根西が反撃し前半は同点で終った。後半が始まり動きのよくなった栃木女は、3点を連取したが彦根西もよくがんばり9分過ぎ逆転に成功そのままリードを続け勝利を得たが、両チームともに好不調の波の大きな試合運びでうまく波に乗った彦根西の力が上まわったゲームであった。（新木康稔）

県静岡城北（静岡）14（10－0／4－5）5 県小林商（宮崎）

（得点）（城北）加藤4、望月2、中川1、伊藤1、大村4、増田1、山本1（小林）目楠3、白川1、中島1。

○…城北は立ち上がりからリラックスしてセット、速攻と加点していく。一方、小林は立ち上がりのかたさが前半を通して見られミスが目だちきめてがないまま前半を終了。後半に入っても、城北は相手ミスから速攻で着々と加点。一方、小林も速攻、ロングと反撃した。だが前半の拙攻、拙守がたたり結果的にはワンサイドゲームとなった。（前川和之）

松江市女（島根）6（4－2／2－3）5 県佐世保北（長崎）

（得点）（松江）妹尾2、千原2、鯉田1、加茂1（佐世保）佐藤1、青木1、豊木3。

○…前半速攻で得たリードを松江女が辛くも保ち逃げ切った。決定力を欠くチーム同士の一戦は松江のリードを佐世保が追う形で終始した。佐世保はGKの好守とポストのうまい位置取りで善戦したが球運なく敗れた。（岩木晃寿）

県水海道第二（茨城）18（9－2／9－1）3 県涌谷（宮城）

（得点）（水海道）飯田1、武藤2、太田4、宮川7、野添3、富山1（涌谷）若山1、木村2。

○…水海道スローオフで始まりいきなり9番のポイントがあった。しかしその後8分間1－0のまま進行、激しい防御からペナルティをもらうが得点に結びつかない。10分過ぎてから水海道の速攻の成功で本来の力を出した前半戦であった。後半に入り涌谷もおちついてプレーができるようになったが、水海道のディフェンスのかべが厚く、攻撃が単調になり一方的なゲーム展開に終った。（横井保信）

県青森西（青森）17（9－4／8－7）11 県池田（徳島）

（得点）（池田）吉井3、松岡2、床西3、藤井3（青森）熊谷4、櫛引1、白坂4、須藤1、工藤5、長谷川1、吉崎1

○…緊張の為か動きが悪い池田は、ボールが手に付かずミスが多く青森西の動きを活発にさせ、10分までに5－0であったが、10分、池田は吉井のシュートが入ってから硬さがとれ追い上げはじめたが青森西のスピードが勝り青森西が9－4でリード前半を終了。後半に入り、動きとスピードに勝る青森西は着実に得点し、前半でのリードを守り切った。池田はポストプレーで得点し頑張るも青森西のスピードにふり切られた。（浅田邦雄）

府東宇治（京都）10（6－2／4－5）7 県日川（山梨）

（得点）（日川）土橋1、小沢1、丸山3、小泉2（東宇治）谷口1、森1、原1、中尾4、玉木1、富岡2。

○…両チームとも決め手を欠いたまま開始6分30秒日川が右サイドからフェイントで切り込み初得点、その後東宇治のPTで同点。両チーム初得点で緊張がほぐれ、動きが活発になり持ち味を出し始めた。11分30秒東宇治の谷口のロングでリード、直後日川もPTで7番が決め得点が動きはじめた。ダブルポストからの攻防でミスした後の速攻などで東宇治が加点(16、18、19分)した。後半に入って立ち上がり東宇治が2点連取、日川・土橋(4分)、丸山(13分)のステップが決まり積極性が出てきた。日川・小泉が右サイドから決め、日川が変則ディフェンスを敷き13分で東宇治の8−6、流れが一度変ったが痛い所でミスが出たりして勝負は決った。（工藤康夫）

神埼農（佐賀）13（9−3／4−5）8 函館女商（北海道）

（得点）（神埼）高木3、山口2、香月1、田中6、重松1（函館）大谷1、海道昭3、海道元2、旭1、長谷川1。

○…前半神埼は早い動きとカットイン、サイドと攻め10分までに5−1とリードし主導権を握る。これに対し函館は長身選手の上からの攻撃がほとんど見られずリズムに乗れなかった。後半函館に元気が出て高木のミドルなどで着々と加点し、10分までに2点差と追い込んだ。その後PT失敗があり流れを変えてしまった。（栗城紘一郎）

県吉井（群馬）21（11−3／10−1）4 岐阜南（岐阜）

（得点）（岐阜）林1、佐藤3、（吉井）江原4、島崎3、野口2、井上3、渡辺1、石井1、田中1横尾1、黒沢3、武田2

○…開始早々、吉井は野口のカットインから得点、その後も全員がよく動き、速攻、カットイン、サイドシュートと得点を重ね単調な攻めを繰り返す岐阜南を引きはなす。後半に入っても、吉井のリズムはくずれずコートいっぱいを走りまわり一方的なゲーム展開となる（前川和三）

昭和学院（千葉）13（8−2／5−4）6 四天王寺（大阪）

（得点）（四天王寺）柳川1、和気1、牧村1、市来3（昭和）星野4、甲斐4、斎藤1、菅田1、三箇3。

○…関東のクイーン昭和に対し四天王寺は縦の攻撃から柳川のステップシュートを生かそうとするが昭和のディフェンスの動きがこれを上まわりシュートチャンスがつかめない。これに対し昭和はよくきたえられたコンビネーションプレーで相手ディフェンスをゆさぶり、ミスもあったが着々と得点し前半を終了。後半両チームとも戦術的に大きな変化もなく、柳川をさげて刺激をもとめたが効果が得られず昭和の快勝であった。（斎藤実）

県総社（岡山）10（3−2、4−5、2−0、1−2）9 筑紫女（福岡）

（得点）（筑紫）陶山1、宮川3、満永1、臼井3、井上1（総社）奥原7、森山1、野瀬2。

○…歯車のかみあわない筑紫女、奥原の得点でなんとかリードを保つ総社だが両チームとも凡ミスが多くチームのペースをつかめない。後半に入っても一進一退のゲームであったが15分ごろからやや筑紫のペース、7−6からPTを得て逃げ切りのチャンスも得点にならず再度のPTもGKの樋口の好守にはばまれ、19分総社PTをものにして延長。奥原、野瀬の連続ゴールで総社逃げ切る。（三枝慶彦）

藤村女（東京）17（8−5／9−7）12 県大曲農（秋田）

（得点）（大曲）金子4、進藤2、小松2、小山2、伊藤1、高田1、（藤村）福岡1、柳井4、山田7、原2、石川1、永井2。

○…試合開始3分1点づつのあと両チームにそれぞれペナルティースローがあった。藤村はこれを決め、大曲はミスをしてさらにそのボールを逆襲され1点を失い、結局3−1となった。ゲームの立ち上がりの2点差は前半さらに後半へと大きな影響を与えた。小型選手小松利のすばしっこい切り込みや速攻で得点を上げ黄色いユニフォームの大曲は、大奮戦をしたが藤村の大型選手の手足の長さに押し切られてしまった。（新井節男）

県大分東（大分）17（9−4／8−4）8 県高知東（高知）

（得点）（大分）石橋1、生田4、佐々木5、芦刈5、江藤2（高知）島田2、松村2、渡辺3、笹岡1。

○…開始早々大分東は、サイドシュートで先取点をあげるも、高知東3分サイドシュートで同点。その後、両チームともミスが続いたものの大分東は着実に得点をあげたのに対し、高知はノーマークシュートミスやPTの失敗などがあり、前半終って5点差で大分東がリード。後半に入っても大分東は着実に得点を重ね一方的な試合となった。また、高知はノーマークシュートミス、パスミスが目立った。（中根武彦）

▽**2回戦**

山陽女（広島）13（7−2／6−4）6 明倫

（得点）（山陽）中嶋2、石田1、山崎3、池田2、沖田1、大林3、川木1（明倫）高橋1、永井1、梅沢3、渡辺1。

○…明倫スタートよく、ブラインドをついたシュートで2点先取したが、山陽女の威力ある攻めにディフェンスの甘さが目立ち一方

的に連取され前半を終った。両チームGKの好守が目立ちゲームを盛り上げていた。後半追い上げを積極的にみせた明倫に、パスミスが目立ちシュートまで結びつかず自滅。走力とフェイントの良い山陽女が圧倒した。（千野恒夫）

市国分実（鹿児島） 12（8—1 / 4—5）6 仁愛女

（得点）（仁愛）北川1、大角4、古川1（国分）古川1、芝1、図師2、室屋8。

○…前半、国分実はコンビネーションプレーで動きからの得点と仁愛のディフェンスのつめの甘さを見破り連続得点する。仁愛は、すばらしい攻撃であるがくずれた後の動きがなく相手のカットプレーや速攻にあった。後半、仁愛も反撃したが単調な攻撃で長身者を利用したものがなく、追いつけないまま国分実の加点を許した。（菅野肇）

熊本女商 26（12—4 / 14—5）9 高岡向陵（富山）

（得点）（高岡）今井2、畠1、石田1、渋谷1、野手4（熊本）立石6、楠本3、寄田5、中野2、奥田美2、奥田恵6、岡村1、山形1。

○…開始早々熊本女は、右サイドからの3本を含め4点連取の好スタート、一方向陵は、熊本の1—5ディフェンスをダブルポストで攻めるがポストが生きず外からのステップ、ジャンプシュートにたよるしかなかった。その後も全くといっていいほどフットワークのない向陵の一線ディフェンスを、熊本はクロス、回りこみ、ミドルなどうまく攻め12—4で前半を終った。後半に入ってもスピードの差はいかんともしがたく、熊本は連続のワンパス速攻などで5点連取、メンバーを替え余裕をもって勝ち切った。（森敏郎）

県羽生第一 15（8—5 / 7—6）11 緑ケ丘（福島）

（得点）（緑ケ丘）橋本7、五十嵐1、阿部1、後藤2（羽生）江原1、鈴木4、石井6、小林2、地主園1、木元1。

○…立ち上がり両チームともかたさがとれずちぐはぐだったが、羽生は石井、鈴木、地主園を中心にボールがよく回りセットプレーポストプレーで得点、一方、緑ケ丘はよく動くがディフェンスの早いつめに合い点差をつめることができず。後半に入り緑ケ丘は橋本のシュートで2点差としたが、つぎのペナルティを落とし緊張の糸が切れた感じがし、羽生の鈴木等に連続得点され勝負がきまった。この試合にて羽生のディフェンスとGKの藤間のプレーが光った。（田島靖夫）

県彦根西 13（5—3 / 8—4）7 県今治南（愛媛）

（得点）（今治）楠橋1、深田1、田中5（彦根）久保田6、浜野1、奥山4、小幡1、吉田1。

○…両チームともよく走り前半は5—3で終る。しかし後半早々彦根西は、今治南の6番田中が負傷退場している間に連続7点をとり勝利を決定する。しかし彦根西のベンチマナーは改めてほしい。（小山哲史）

県静岡城北 13（7—5 / 6—1）6 日大山形（山形）

（得点）（静岡）加藤3、伊藤2、大村2、増田3、青島3（山形）伊藤2、進藤4。

○…城北は素早い出足からパスをつないで走りまわり快勝した。前半、つなぎからのサイド攻めでリードを奪った城北は、後半立ち上がりつないでポストに通すという変化を見せ奏功、一気に勝負を決めた。一方、日大山形は打ってよし、回ってよしの進藤が城北ディフェンスの徹底したマークにあい前半15分でバテたのが痛かった。結局試合は、後半城北の一方的な走りに終ったが、山形GK石山の果敢なプレーに拍手を送る。（岩木晃寿）

暁（三重） 17（11—2 / 6—9）11 松江市女

（得点）（暁）恩田2、加藤5、森崎2、水谷1、三木4、山本3（松江）妹尾2、千原2、鯉田2、加茂2、宅和3。

○…暁はディフェンス、攻撃ともに勝り、松江市女の懸命な攻撃も及ばない。暁の攻撃は、速攻、ステップシュート、ポスト攻撃と持ち前の力を全て出して戦っていた。

県三好（愛知） 13（3—3 / 10—5）8 水海道第二

（得点）（水海道）太田4、宮川3、野添1（三好）山岡8、佐藤1、進藤1、毛利3。

○…前半、両チームとも固さがほぐれずいい形はできるのだか得点に至らない。3—3で前半終了。後半に入り、水海道は開始早々宮川のロングで先行、すぐに三好もPTで反撃し、さらにPT、ロングをきめ主導権を握る。結局、全員がよく動きのびのびとプレーした三好が中盤以後水海道を圧倒し、快勝した。（秋永昭治）

県岩国商（山口） 20（8—3 / 12—4）7 県青森西

（得点）（岩国）伊藤3、横田4、西村4、東3、角4、谷1、島岡1（青森）熊谷2、白坂1、工藤2、吉崎1、小笠原1。

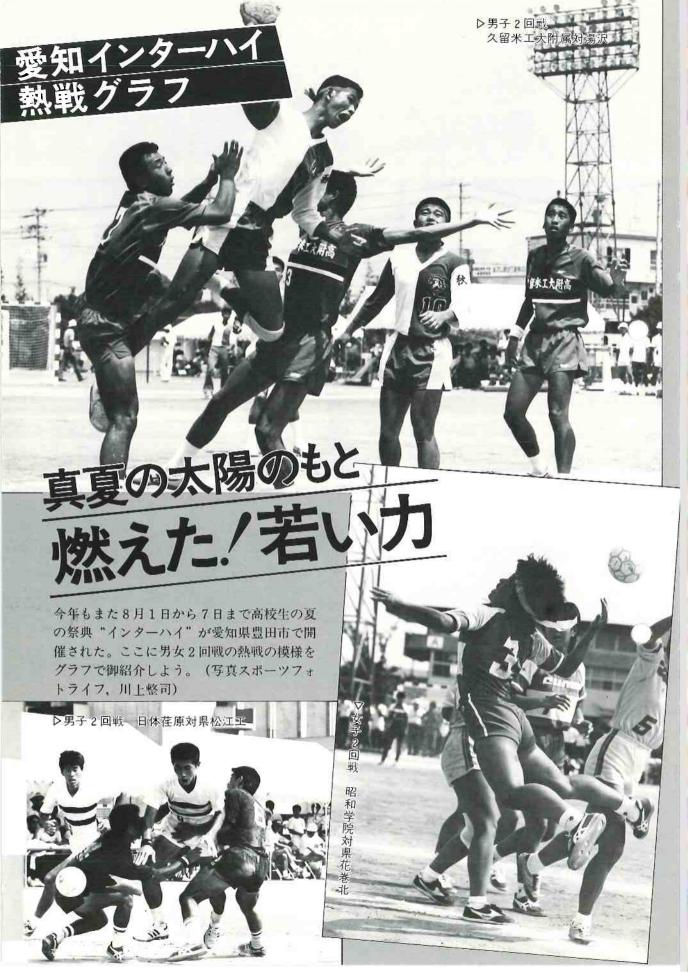
○…前半、青森西が先取点をあげたが、5分頃より岩国のエンジンがかかり速攻の鋭い走りとたくみなパスワークで着々と加点しリードを広げた。後半も青森西は相手の堅いディフェンスにカットインできず攻めあぐむケースが多いのに対し、岩国商は、のびのびと走りまわり大差となった。しかし

愛知インターハイ 熱戦グラフ

真夏の太陽のもと 燃えた！若い力

今年もまた８月１日から７日まで高校生の夏の祭典“インターハイ”が愛知県豊田市で開催された。ここに男女２回戦の熱戦の模様をグラフで御紹介しよう。（写真スポーツフォトライフ，川上整司）

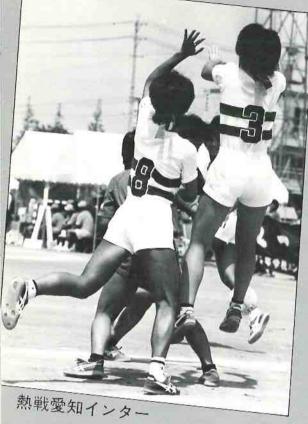
▷男子２回戦　久留米工大附属対湯沢

▷男子２回戦　日体荏原対県松江工

▽女子２回戦　昭和学院対県花巻北

▷女子２回戦　昭和学院対県花巻北

▷男子２回戦　北陸対西宮市立西宮東

▷男子２回戦　県岩国対大分電波

▷女子２回戦　県羽生第一対緑ヶ丘

▷女子２回戦　夙川学院対藤村女

熱戦愛知インター

▷女子２回戦　暁対松江市女

▷男子２回戦　興南対道上磯

▷男子２回戦　県富岡対仙台育英

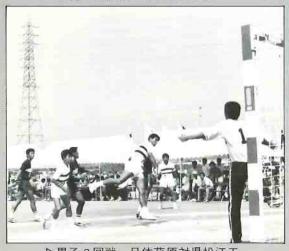
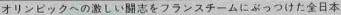
▷男子２回戦　日体荏原対県松江工

▷男子２回戦　久留米工大附属対湯沢

フランスナショナルチーム来日

全日本と熱戦を展開

フランスナショナルチームが日本各地で6試合を行なって次の目的地韓国へと向った。ここに7月26日東京・駒沢体育館で行なわれた全日本チームとの最終戦の模様をグラフで御紹介しよう。

オリンピックへの激しい闘志をフランスチームにぶっつけた全日本

シュートも確実に決った全日本

強力なパワーを誇るフランス

試合終って友情の交歓

最後まで頑張って青森西の健闘はすばらしかった。（栗城紘一郎）

府東宇治 11（5−4、6−2）6 県首里（沖縄）

（得点）（東宇治）谷口2、原2、中尾5、玉木1、富岡1（首里）鈴木1、平良4、新納1。

○…両チームとも立ち上がり動きが鈍く、首里はスローオフ20秒で鈴木がサイドシュートを決め、その後両チームとも得点がなかった。首里は平良を中心にボールを廻し、平良がミドルシュートで加点した。一方、東宇治は単調な攻めでミスが目立ったが、後半攻めのコンビネーションがかみ合い順調な加点ができたのが勝因である。（杉本真一）

神埼農 15（6−4、9−4）8 佐久（長野）

（得点）（佐久）高木1、香月5、田中2（神埼）中嶋5、木内3、岩崎1、青柳2、千葉2、林1、斉藤1。

○…両チームともスピード不足でパスミス、シュートミスが多く盛り上がりに欠ける。前半16分まで4−4と一進一退から神埼に速攻が2本成功し6−4で前半終了。後半開始直後神埼は、連続でPTを2本決め優位に立つ。一方佐久は、ミドルシュートをねらうけれどもバーに当たりGKの好プレーに後半13分得点できず。神埼は速攻ミドルと着実に加点し勝利を得た。

県吉井 17（5−4、12−2）6 県新潟江南（新潟）

（得点）（吉井）江原3、島崎2、野口6、井上1、渡辺1、石井1、田中1、黒沢1、武田1（新潟）坂内5、桜井1。

○…両チーム立ち上がり、決め手を欠き点をあげることができなかったが、江南・坂内のロングシュートが決まり得点をあげる。一方、吉井はノーマークシュートを7本もはずすなどミスが目立ったが、14分過ぎから徐々に追いあげる。後半に入って江南攻め切れず得点をあげることができない。吉井は相手ミスから速攻をかけ点差を広げて勝った。（九田秀夫）

昭和学院 20（10−5、10−4）9 県花巻北（岩手）

（得点）（花巻）山本3、伊藤5、佐藤1（昭和）星野7、甲斐5、斉藤3、三箇4、石毛1。

○…試合開始早々昭和は、半速攻でサイド、ポストと多彩に攻め4−1とリード。一方、花巻もGKの好守もあり、速攻、カットインなどでよく粘り7−4と追いすがる。その後昭和は、星野の好リードで加点し前半10−5で終了。後半に入っても試合巧者の昭和は着々と加点しペースをつかむ。特にポスト、サイド、カットインと攻撃の幅は広く花巻のディフェンスを苦しめた。花巻も伊藤のシュートなどでよく頑張るが、残念ながら勝利を得るには至らなかった。花巻の健闘をたたえたい。（秋山幸生）

県小松商（石川）19（9−2、10−3）5 県総社

（得点）（総社）奥原3、大森1、野瀬1（小松）山井1、糸谷4、吉田3、北山6、谷口1、池田1、千代3。

○…両チーム動きの悪い立ち上がりであったが、小松はサイド、ロングと得点を重ねた。総社の攻撃は中央に集まりチャンスを作ることができず、前半中盤より点差が開くと同時に小松の動きがよくなり大きく主導権を握った。（久保田龍治）

夙川学院（兵庫）14（7−7、7−6）13 藤村女

（得点）（夙川）植田5、高岡6、米山1、檜本1、塩崎1（藤村）比田井2、福岡1、柳井2、山田5、原2、小林1。

○…前半は藤村のロング攻撃にて主導権をとり山田のPTが2本と波にのるかに思われたが、夙川も植田、高岡がすばらしい走りで7−7と同点までもちこみ前半を折りかえした。後半に入り、藤村柳井が速攻で決めると夙川も高岡のカットインからすぐさま同点とし一進一退となった。10分過ぎから夙川も2点差としたが藤村もよく頑張ってくらいつき、終了まぎわの速攻で1点差までつめよったがついに時間切れとなった。好プレーの多く見られる白熱したゲームであった。（横井保信）

名短大付（愛知）23（11−3、12−9）12 県大分東

（得点）（大分）佐々木4、芦刈6、益守2（名短）渡辺2、稲垣4、高瀬1、長谷川4、城8、奥村3、高橋1。

○…前半攻守に勝る名短付の一方的な展開であった。8分21秒大分東の退場のすきをつき加点し余裕のある試合展開をした。後半に入っても動きは変らず終始走りまくった。対する大分東は名短付の速い動きにディフェンスが守りきれず健闘むなしく破れた。（幸田末之）

▽**3回戦**

山陽女 16（9−3、7−3）6 市国分実

（得点）（山陽）中嶋4、佐々木1、石田6、山崎3、沖田1、大林1（国分）芝1、久木田1、室屋2、宮原2。

○…開始早々国分実が先制点をあげるが、その後は山陽女が石田を中心にロング、速攻、フォーメーションで得点を重ね優位に立つ。後半も前半と同じペースで試合が進む。両チーム元気によく走り、好感の持てる試合だった。（小山哲史）

熊本女商 20（12−3、8−6）9 県羽生第一

（得点）（熊本）立石3、楠本2、寄田7、中野4、奥田4（羽生）鈴木1、石井3、小林1、地主園1、木元1、坂木2。

○…熊本はきびきびしたディフェンスで羽生のポストを完全につぶし、フォローの良いキープ力のあるボールつなぎから速攻、ステップ、ポストと多彩に攻め、11分過ぎ9点連取し勝負を決めてしまった。羽生も鈴木、石井、地主園が外からのシュートを打ったが、熊本GKの堅実な守りでなかなかゴールを割ることができなかった。熊本の巧さが目立った。（森敏郎）

県彦根西 16（7−7、9−2）9 県静岡城北

（得点）（彦根）久保田6、谷口2、浜野2、奥山5、小幡1（城北）加藤1、望月2、大村4、青島2。

○…両チームとも1−5のディフェンスからきびきびとしたプレーを展開したが、久保田を中心に落着いた攻撃をした彦根西がリードで試合は進められた。しかし、攻撃のリズムがもどった城北がジリジリと追い上げ、7−7の同点で前半を終了した。

後半に入り、攻撃力に勝る彦根西は速攻、セットと多彩な攻撃で着々と得点をあげ、攻めあぐむ城北に差をつけて終了した。（新木康稔）

県三好　15（10—6、5—7）13　暁

（得点）（暁）加藤3、森崎2、水谷2、三木3、山本3（三好）岩城1、山岡4、佐藤1、松川4、毛利2、橋本1。

○…開始直後暁が得点をあげ10分ぐらいまで暁のペースで進んだが、三好が足を使い始め流れが変った。また、三好の山岡、橋本の両選手がマークされたが、暁のディフェンスが薄くなったところを攻め着々と加点する。

後半、両チームとも激しい攻防が続き一進一退のゲームとなったが、暁が徐々に追い上げ終了2分前1点差としたが、三好がPTを決めて勝利を手中にした。両チームの健闘を讃えたい。（半田忠）

県岩国商　22（10—8、12—5）13　府東宇治

（得点）（岩国）伊藤5、横田5、東2、角8、谷2（東宇治）谷口3、森1、原2、中尾2、玉木4、富岡1。

○…前半4分頃まで両チームとも動きが悪かったが、東宇治が連続3点をとり活気づく。しかし、岩国も3点を連取して同点、ここから一進一退のゲーム展開、前半は岩国2点リードで終わる。後半に入って動きがもう一つの東宇治に比べ岩国はステップ、速攻、ミドルと加点し、点差を広げ試合を決める。後半に入っても動きの落ちなかった岩国が試合をものにした。（九田秀夫）

県吉井　12（6—5、6—4）9　神埼農

（得点）（神埼）高木4、香月4、田中1（吉井）江原2、島崎2、野口1、井上2、石井4、武田1。

○…立ち上がり5分は吉井のポスト攻撃にディフェンスの甘い神埼は点を許す。逆にディフェンスが勝る吉井は、ハーフ速攻気味からセットへと切り替え加点する。しかし、神埼農も攻撃をあきらめず、ペナルティに持ち込み互角に戦う。後半、神埼は吉井の江原にマンツーマン・ディフェンスでくいつくが、一歩及ばなかった。両チームとも全力で戦っている姿は素晴らしかった。（水田裕孝）

昭和学院　14（8—2、6—2）4　県小松商

（得点）（昭和）星野6、甲斐4、三箇3、石毛1（小松）山井1、北山1、池田2。

○…前半、昭和学院がスピーディな動きからのカットインでチャンスをつかみ、甲斐、屋町の活躍でリードする。一方、小松商はセット攻撃がスピードを欠き、得点チャンスがなく苦戦。後半、小松商やや足が動き出したが、攻撃が単調で2点に終わる。昭和学院は動きが良く、星野のロングが決まりリードを広げ楽勝、10分過ぎには甲斐、星野を休ませる余裕を見せた。（旅逸郎）

名古屋短大付　18（11—4、8—4）8　夙川学院

（得点）（夙川）新賀1、植田3、高岡1、米山3（名短付）渡辺1、稲垣3、高瀬2、長谷川9、城1、奥村2。

○…前半10分までは名短・長谷川、夙川・植田の活躍で4—4と互角にやっていたが、10分から名短・長谷川のワンフェイント、ワンドリからのシュートとロングシュートにて差が出た。後半に入っても名短の走りは止まらず、15分間無得点に押さえ一方的な展開となった。終盤、夙川も米山のロングシュートで頑張りを見せたが、及ばなかった。名短付のスタミナ残り5分までは素晴らしいものがあったが、後5分の気力が欲しい。（岩永重之）

▽準々決勝

山陽女　10（5—4、5—1）5　熊本女商

得	【三陽】		【熊本】	得
0	山口	GK	前田	0
0	笑迫	GK	緒方	0
4	中嶋	FP	立石	0
0	佐々木	FP	楠本	1
2	石田	FP	寄田	2
0	山崎	FP	中野	0
0	池田	FP	奥田美	1
0	沖田	FP	奥田恵	1
4	大林	FP	岡村	0
0	相川	FP	江上	0
0	川本	FP	山形	0
0	弘中	FP	山崎	0
10	(3)	PT	(1)	5

（審・斉藤　千野）

○…前半両チームとも固さが見えなかなか得点できず苦しい展開であった。3分、熊本女商がPTを決め先制点をあげリズムをつかみ始める。4分過ぎ今度は山陽女にエンジンがかかり連続3ゴールを決める。お互いサイド攻撃が少なく、ポストだけ狙う場面が多かった。

後半、互いにチャンスをものにできず一進一退の緊張したゲームであった。15分過ぎ山陽・石田のカットインシュートが決まり、山陽のペースになった。最後まで気迫のある好感の持てる試合であった。（半田忠一）

県彦根西　11（5—5、6—2）7　県三好

得	【彦根】		【三好】	得
0	田島	GK	藤松	0
0	河地	GK	戸松	0
4	久保田	FP	岩城	0
1	谷口	FP	山岡	2
1	浜野	FP	佐藤	0
2	奥山	FP	近藤	0
3	小幡	FP	松川	2
0	川口	FP	早川	0
0	広瀬	FP	毛利	1
0	辻森	FP	橋本	2
0	三国	FP	都築	0
			直洞	0
11	(3)	PT	(0)	7

（審・幸田　新井）

○…三好・山岡のシュートで先取点。彦根西も奥山のロングで同点となりその後一進一退の攻防。前半は5—5のスコアで終了。後半に入って三好のパスミス、キャッチミスが目立ち速攻を許す。彦根西は短いパスで三好のディフェンスを崩し、PTを得て加点する。

三好は後半スタミナをなくし、フリースローで点をあげたにとどまった。（岩永重之）

県岩国商 9（7－4 / 2－4）8 県吉井

得	【吉井】		【岩国】	得
0	大河原	GK	宇佐川	0
0	遠藤	GK	松井	0
3	江原	FP	伊藤	1
1	島崎	FP	横田	4
1	野口	FP	西村	2
2	井上	FP	東	1
0	渡辺	FP	角	1
1	石井	FP	谷	0
0	田中	FP	作本	0
0	武田	FP	森本	0
0	春山	FP	島岡	0
0	小林	FP	宮部	0
8	(3)	PT	(1)	9

（審・中根・秋山）

○…岩国商は2本のPTで先行して優位。吉井が中盤ノーマークのミス2本とPTをはずしたことが一層岩国商を有利にした。後半、岩国商も攻撃に決め手がなくなり吉井の反撃に会うが、同点にまでは至らなかった。（横井保信）

名古屋短大付 17（8－4 / 5－9 / 1－0 / 0－1 / 1－2 / 2－1）17 昭和学院

PT 2－0

○…前半スピーディな動きの名短付は、多彩なプレーで稲垣、長谷川を中心に得点、昭和も甲斐のフェイントがよく切れ、PTを誘い得点するが8－4で名短付リードで前半終了。後半に入り名短付ディフェンスの乱れをついて着実に得点を重ね、同点に追いついて延長戦に入る。

延長戦両チーム点をとり死力を尽して攻撃したが再延長になる。第2延長も両チーム集中力に欠けることなく互角に戦い、結局勝負がつかずPTCに入った。PTCは2－0で名短付が勝つ。両チームとも良く戦い、さわやかな印象を与えた好ゲームであった。（岩永重之）

得	【昭和】		【名短付】	得
0	神尾	GK	小畠	0
0	宮内	GK	石川	0
6	星野	FP	渡辺	5
5	甲斐	FP	稲垣	3
2	斉藤和	FP	高瀬	2
0	菅田	FP	長谷川	4
0	斉藤智	FP	成田	0
4	三箇	FP	御厩敷	0
0	小松	FP	城	2
0	須賀	FP	奥村	2
0	滝口	FP	高橋	0
0	石毛	FP	山下	0
17	(6)	PT	(1)	17

（審・三枝・大塚）

▽準決勝

山陽女 12（4－4 / 8－5）9 県彦根西

得	【彦根】		【三陽】	得
0	田島	GK	山口	0
0	河地	GK	笑迫	0
6	久保田	FP	中嶋	7
0	谷口	FP	佐々木	0
1	浜野	FP	石田	1
2	奥山	FP	山崎	1
0	小幡	FP	池田	1
0	川口	FP	沖田	0
0	広瀬	FP	大林	2
0	辻森	FP	相川	0
0	吉田	FP	川本	0
0	三國	FP	弘中	0
9	(2)	PT	(1)	12

（審・福田・松尾）

○…連日のゲームの疲労からかまた、準決勝という名のプレッシャーからか、両チームともプレーのきれが悪く、チームの歯車も合わずミスが続出、苦戦となる。残り2分で山陽女が2点を連取、彦根西を突き離す。（小山哲史）

名古屋短大付 18（8－8 / 10－3）11 県岩国商

得	【名短付】		【岩国】	得
0	小畠	GK	宇佐川	0
0	石川	GK	松井	0
2	渡辺	FP	伊藤	0
4	稲垣	FP	横田	5
4	高瀬	FP	西村	2
5	長谷川	FP	東	1
0	成田	FP	角	3
0	御厩敷	FP	谷	0
2	城	FP	作本	0
1	奥村	FP	森本	0
0	高橋	FP	島岡	0
0	山下	FP	宮部	0
18	(1)	PT	(1)	11

（審・斉藤・千野）

○…大声援を背にした名短付は終始衰えぬ走りと守りで粘り強く追撃した岩国商を突き離して快勝した。

試合開始直後、快調に突っ走る名短付に対し、岩国商に持ち味のしぶとさを遺憾なく発揮して試合は緊迫した様相を呈した。後半に入っても突き離そうとする名短付を追い、10分まで12－11の接戦を展開した。ここで名短付・稲垣の見事なカットインで2点差、さらに13分稲垣はゴール右隅にロングシュートを突きさし、これをきっかけに結局名短付は6連続得点で勝負を決めた。

敗れた岩国商は、よく名短付のスピードについていったが、残り10分のスタミナがなかった点が惜しまれる。両チーム3番とGKの美枝の応酬は見応えがあった。（岩本晃寿）

▽決勝

山陽女 15（7－1 / 8－3）4 名古屋短大付

得	【三陽】		【名短付】	得
0	山口	GK	小畠	0
0	笑迫	GK	石川	0
3	中嶋	FP	渡辺	1
0	佐々木	FP	稲垣	0
4	石田	FP	高瀬	1
2	山崎	FP	長谷川	1
2	池田	FP	成田	0
3	沖田	FP	御厩敷	0
1	大林	FP	筒井	0
0	相川	FP	城	0
0	川本	FP	奥村	1
0	弘中	FP	高橋	0
15	(0)	PT	(0)	4

（審・斉藤・千野）

○…春の選抜のクイーン山陽対本大会準々決勝で一度死にかけた地元名短付との戦いも、本年度2度目の対決である。前半1分40秒山陽が先取し好調な滑り出し。一方山陽の守備に手を焼く名短付も8分に得点し、やっと本来の持ち味を出すも山陽GK山口の好守にあい苦戦。山陽は速い帰陣と堅固な守りで終始名短付を圧倒、中嶋、石田、大林らの粘りと意欲ある走りが光った。

後半8－1から名短付はポストプレーを多用して2点連取。しかし、依然として山陽のペース、最後まで勝負を捨てない名短付と7人全員でプレーする山陽の姿は、本大会を締めくくるにふさわしいものであった。（三枝慶彦）

フランスチームを迎えて

全日本2勝1分けと勝つ

アジア予選を控えての好ダッシュ

フランス・ナショナルチームを迎えて、七月十六日から、全日本の試合を含めて6試合が、大阪、横浜、名古屋、東京、徳山、鈴鹿と転戦して行なわれた。久々のナショナル戦とあって各地とも熱っぽい試合を展開した。とくに全日本チームは、アジア予選を控えて激しい闘志を燃やしてフランスナショナルチームと対決、2勝1分けと好結果を収め五輪への道に自信を深めた。

▽第1戦

（7月16日・大阪市体育館）

湧永製薬 24（13―8 11―11）19 フランス

得	【湧永】		【フランス】	得
0	大城	GK	メルロー	0
0	井藤	GK	モレル	0
7	池ノ上	FP	シキュ	3
7	生駒	FP	ガフェ	7
4	穂積	FP	セリネ	3
2	藤本	FP	ジェオフロイ	1
0	志賀	FP	ペルシェティ	0
0	中川	FP	エスパル	0
0	内田	FP	クリオール	0
3	松本	FP	ニコラ	2
1	原田	FP	ベルナール	1
0	檜原	FP	デシャン	2
24	(5)	PT	(3)	19

（審・新村、井上）

▽第2戦

（7月17日・横浜文化体育館）

全日本 25（16―10 9―7）17 フランス

得	【全日本】		【フランス】	得
0	大畑	GK	ブール	0
0	井藤	GK	メダール	0
5	蒲生	FP	シキュ	2
1	中本	FP	ガフェ	3
2	関	FP	セリネ	1
1	生駒	FP	ジェオフロイ	3
6	池ノ上	FP	ペルシェティ	2
2	志賀	FP	クリオール	2
1	松井	FP	デシャン	0
5	西山	FP	ニコラ	2
2	高村	FP	ベルナール	2
0	田口	FP	エスパル	0
25	(3)	PT		17

（審・上久保、北井）

国際公式試合出場100回を讃え、記者クラブから表彰の栄誉を受けたミスターハンドボール・蒲生選手が、攻守にわたって大活躍し、観衆を魅了した好ゲームだった。

立ち上がり、蒲生を中心とした中本、生駒、池上、志賀、西山のディフェンス・ラインの攻撃的な防御は、フランスチームが誇る、ジェオフロイ、ガフェ、シキュのアタッカーを中心としたミドルアタック戦法の意図を読んで、カウンターパンチを与えた防御は見事だった。

この蒲生を軸にした、声と動きの連けいプレーのリズムは、攻撃の面にも現われた。前半3対1にした上から下へのジャンプシュート。フランスジェオフロイの豪快なジャンプシュートのすぐあと、ダイナミックな動きから切れ味の良いジャンプシュートで、すかさず8対4にした執念の得点力。日本のエース・アタッカー・西山への絶妙なアシストパス、速攻、セットのゲームメーカー等、ミスター・蒲生のプレーは、さすが世界の蒲生を感じさせる素晴らしいプレーだった。

後半に入っても、ミスターの動きと技術は依然として衰えず、なかでも、ゴール前15m位の地点からスピードの変化で動いて相手をかわし、高い空間からGKの道をついて得点した17点目は、正に一級の芸術品だった。

フランスチームは、来日早々の対湧永戦に続いての第2戦目、時差ボケと疲れの為か生彩がなく、その中で、ジェオフロイ、ガフェ、新進の左のベルナールの豪快なジャンプシュートは彼等ならではのもので特に印象に残った。

総じて、市原新監督が舵を握る新生日本丸の前途洋々の船出を感じさせる一戦だった。（北川）

▽第3戦
（7月20日・徳山市体育館）
フランス 30（16—7、14—11）18 徳山クラブ

得	【フランス】		【徳山ク】	得
0	メルロー	GK	有吉	0
0	モレル	GK	河内	0
7	シキュ	FP	木村	0
5	ガフェ	FP	久保	0
3	セリネ	FP	住田	0
2	ジェオフロイ	FP	明石	1
3	ペルシェティ	FP	野村	0
0	エスパル	FP	池田	0
3	クリオール	FP	岡村	0
2	デシャン	FP	西村	0
2	ニコラ	FP	明石	8
3	ベルナール	FP	伊ケ崎	0
30		(0) PT (6)		18

（審・中所、古宮）

（徳山ク）樫部0、中村0、温品0、大江3、洞ケ瀬0、藤井3、西山3、宮本0。

▽第4戦
（7月22日・鈴鹿市体育館）
フランス 36（17—16、19—7）23 本田技研

得	【本田】		【フランス】	得
0	大畑	GK	ブール	0
0	中尾	GK	メダール	0
0	佐々木	FP	シキュ	3
2	三本松	FP	ガフェ	7
0	宮井	FP	セリネ	6
0	豊岡	FP	ジェオフロイ	3
2	長野	FP	ペルシェティ	1
1	玉井	FP	エスパル	0
5	粟屋	FP	クリオール	2
0	立木	FP	デシャン	7
7	猪野	FP	ニコラ	4
1	坂木	FP	ベルナール	3
23		(5) PT (6)		30

（審・——）

（本田）尾上0、田野4、吉山0、松本1。

▽第5戦
（7月23日・愛知県体育館）
全日本 19（10—7、9—12）19 フランス

得	【フランス】		【全日本】	得
0	メルロー	GK	大畑	0
0	モレル	GK	上村	0
2	シキュ	FP	蒲生	1
3	ガフェ	FP	中本	1
5	セリネ	FP	関	0
3	ジェオフロイ	FP	池ノ上	5
0	ペルシェティ	FP	洞ケ瀬	0
0	クリオール	FP	佐々木	0
2	デシャン	FP	志賀	1
1	ニコラ	FP	西山	8
3	ベルナール	FP	高村	2
		FP	田口	1
19		(3) PT (2)		19

（審・斉藤、千野）

全日本との第2戦にかけたフランスの勝利への意欲と、地元大同中心のメンバーを組んだ日本チームの闘志が、ぶつかりあったゲームは、スリルやエキサイティングに富んで、会場を埋めた4千人の観衆を大いに楽しませた。

徳山クラブ、本田技研戦で調子を上げたフランスは、この日もコンディション上々でゲームに臨み、特に大砲のガフェ、ジェオフロイ、ベルナールの豪快なシュートが次々と決まって好スタートを切った。

これに対し日本は、第1戦のスタート時のようなロングシュートに対する素早い詰めと、これをフォローする守りの連けいプレーが見られず、彼等の意のままにシュートされてゴールを割られた。この悪い防御は、攻撃にも影響し、アッという間に立ち上がり8対3とリードされた。

しかし、ねばりが増した日本は、中盤以降じりじりと追い上げ、一時は同点としたが、この中で絶好の速攻のチャンスを2度も逸し、結局前半3点のアヘットを許した。

後半に入って徐々に調子を上げた日本は、13分、ついに合宿の課題であった追い上げ速攻から地元中本の身を挺したカットインプレーが決まって14—14の同点に漕ぎ着けた。

しかし、フランスがこの一戦にかけた勝利への執念は凄まじく、またたく間に16—14と再度リード、だが日本チームも地元大同組がよく頑張って後半20分、16—16の対スコア、会場はフランスチームのエキサイティングなゼスチャーと相俟って興奮のるつぼと化した。

このような緊迫した状況の中で、GK大畑の冷静で果敢なキーピングとアタッカーエースの西山の鋭く振り切るフェイントシュート、剛腕にまかせてからみつくラフプレーを振り切っての頼もしいタフネスプレーが光った。このように3度対スコア、引き分けた激しいゲームの中で、俊敏かつパワフルではつらつとした西山のプレー振りは、新生日本の新らしいスターの誕生を思わせた。（北川）

▽第6戦
（7月29日・駒沢体育館）
全日本 29（17—14、12—11）25 フランス

得	【フランス】		【全日本】	得
0	ブール	GK	大畑	0
0	メダール	GK	井藤	0
4	シキュ	FP	蒲生	9
10	ガフェ	FP	中本	0
4	セリネ	FP	関	0
0	ジェオフロイ	FP	生駒	5
1	ペルシェティ	FP	池ノ上	9
1	クリオール	FP	洞ケ瀬	0
1	デシャン	FP	志賀	0
1	ニコラ	FP	松井	0
3	ベルナール	FP	西山	5
		FP	高村	1
25		(5) PT (6)		29

（審・——）

第1戦の横浜では大差、名古屋では引き分けと二戦とも全く違った展開となったため、両ナショナルチーム共に第3戦にすべてをかける様子がうかがえる。駒沢で行なわれるビッグゲームは、モスクワ五輪予選以来のことで館内は久々に盛りあがった。

試合は、フランスの早いコンビプレーで始動、高い滞空時間を十分に生かして、常にポストインする2名の選手に防禦体制を読みながら矢のようなパスを繋ぎ先取点、その直後、全日本もサイドから期待の西山が切り込んで返す。スローオフから白熱の様相、中盤、そして後半とどんなに盛りあがり、素晴しいゲーム展開になるかとさらに大きな期待がよせら

れ、瞬間のドラマに凝視させられる。

5分経過で6対3と日本優位に立ち、続いて蒲生のフェイントからカットインする西山に繋いで7対4とリードは続く。その後も生駒のロングなどで10対7と調子に乗ってはいるが、それでも食い下がるフランスの高い攻撃に苦闘の連続である。

ここで大きく水をあけることが出来るかと思うシーンが再三あったが、残念なことにミスパスが続き、逆に速攻でセンター突破され、2点差となる。しかし、頑張る全日本も池ノ上がPTを決め、またまた3点差と突き離すが、フランスのゴールエリア付近を巧みに使いこなす高度なボール捌きでベルナール、ニコラに得点され1点差。全日本も蒲生、志賀、そして西山と流れる様なパスワークで2点差をつけるが、その後ガフェにPTを決められ、その差また1点に詰められて前半を終了する。

後半に入っても力量溢れる熱戦は続く、全日本は西山、池ノ上、生駒、蒲生とそれぞれ個性を生かしたシュートで得点を重ねるが、フランスのエース、ガフェが強烈なシュートと巧みさとを十分に生かして、何と10分間に5点連続の大活躍で勝敗の行方は全く五分となり、館内は益々わく。そして、残り17分20秒で3番のシキュがカットインして19対19とこの試合初めて同点となる。

その後も激しい攻防は続くが、得点に結び付かず、ようやく3分後、強引に生駒がロングを決めて全日本が1点リード、さらに蒲生が連続得点し、PTも決めて残り10分では、2点差と、全日本がリードする。

全日本ベンチは後半に入って当たりに当たるガフェにマンツーマンをとり徹底マーク、その後フランスも蒲生をマークするなどベンチの策も忙しくなる。しかし、先手を打った全日本が勝り、残り16分の得点は10対6と4点差、それがそのまま勝負を決めた試合だった。

いずれにしても、久々のナショナル戦で観衆も満足出来た試合だったと思う。と同時にアジア予選を控えた全日本にとっても3戦して2勝1分とまずまずの出来であり、この試合の内容をさらに分析して、今後に生かすことは必定だが、只一つの問題は高さであろう。防禦に対する突破力の可能性は出来つつあると感じたが、フリースローラインの外側からのシュート、その位置からのパス、それからの展開に対してどう対処するのだろうか。それらが入賞への厚い壁であることは誰でも理解出来るのだが。（川上）

フランス戦を顧みて

攻防のミスの減少が五輪への道

全日本監督　市原則之

今年の5月、監督として就任し、直ちにコーチングスタッフを含めたナショナルチーム結成へと作業を進めた。新しいチームの使命は、ロサンゼルス・オリンピック出場である。チームにとって、対フランス・ナショナル戦は、アジア予選通過のための目安を知るための絶好の機会であったといえよう。

7月17日の横浜でおこなわれた第1戦は、フランスチームが時差（約14時間）の関係で当チームの実力を計ることは、できなかったが、日本チームは終始攻防にリードしたことは、特に若手選手にとって、好経験であったといえる。しかし第2戦の名古屋大会は、フランスチームの時差の解消と日本の湿度の高い気候にも慣れたことや、名古屋大会以前の徳山クラブ、本田技研の2試合によってチームの調子もあがり、好ゲームが展開されることを予想していた。しかし日本チームの若手選手の育成は、今後のチーム作りとして不可欠なものであり、任を果させ、予想通りの好ゲームとなった。この第2戦からみての課題は、シュートミスが目立った点であり、今後1点を競う攻防に対して解消させなければならない点であることが指摘されよう。

東京大会は、両チームにとっての決着の場であり、フランスチームは特に攻撃面で多種多様なプレーを披露してくれた。しかも1点を争う攻防であったが、地の利を生かして最後に引き離すことができた。

対フランス戦を顧みるならば、結成してまもない日本チームは、今大会によって今後チームとしてあるいは選手個々のプレーを修正するよい機会であったことは、いうまでもない。ベテラン選手を中心に、若い選手が一層奮起し、ベテラン選手の域に達してくれることが、チーム全体の向上に繋ると考える。また当然のことながら、さきにもふれたごとく攻防における失敗を少なくすることであり、大きな課題となる。

われわれは、チーム育成はもとより相手チームをも研究しなければならない。フランスチームが日本遠征後、韓国に渡り、韓国ナショナルチームと対戦するという情報を掴み、幸いにも対フランス戦の試合を強化部長、コーチングスタッフと観戦することができた。

韓国チームは、若いチームではあったが、基本プレーに真に忠実であり、確実なこまかなパスプレーに繋るポストプレー、守りからの速い攻め、守りの堅さは、みならわなければならない技術であった。

現在の韓国はスポーツに対する行政が進んでおり、国を挙げてのスポーツ熱は驚異である。われわれが観戦中での第2戦はテレビ放映があり、2万人収容のできる体育館に約1万2千人の観客を集めてのゲームであった。サッカー、野球につぐ人気種目になってきたと聞いている。勝負を左右することは、心、技、体に秀れていることは、勿論であるが、スポーツをおこなう社会的背景をも加味されるものであり、今後ロサンゼルス、ソウル両オリンピックに対しての韓国チームの成長は、大いに期待でき、日本チームとしては予断を許さない状況であると考える。

ブラザー電子タイプライターが
1984年ロサンゼルス
オリンピックの
公式タイプライターに
選ばれました。
Electronic
Office
Typewriters
brother®
ブラザー工業株式会社

日韓ジュニア交流競技会

日本、男女共大敗を喫する

一九八三年日韓ジュニア交流競技会は、8月18日、20日の両日、国立競技場第二体育館を中心に8種目の競技に熱戦を繰り広げた。ハンドボールは、府中市立体育館で行なわれたが、韓国が男女とも圧倒的な強みをみせ日本チームを寄せつけなかった。

東京代表は大差で敗退

18日は東京代表の男子、女子、藤村女子が対戦したが、日体荏原、いずれもダブルスコアに満たない大差で敗れた。

男子は、開始早々東亜が素早い動きからサイドを攻めてPTを得、すかさず黄約那が決め東亜が先取点。その直後、日体荏原も速攻で返すが、韓国はたたみかけるように李仁和、康彰元が連続得点して9分経過したところで7対3とリードする。荏原は東亜の固い守りにセンター突破出来ず、パスカットと速攻で点を重ねるしか方法がなかった。しかし、10分を過ぎてからようやく攻撃のきっかけを掴み、明石、吉田のロングとGK大原から真野に絶妙なロングパスを繋いで12対8と迫る。しかしマイペースを崩さない東亜は、その後も康彰元のミドルや李仁和のインターセプトなどで得点し、16対9で前半を終了。

後半に入っても、康彰元、黄約那、李仁和のミドル、カットインポストを巧みに生かす好プレーで大量得点、東亜は34点をたたき出した。一方、荏原も随所にファインプレーは見せたが、得点力では格段の差があり、16点をあげるのが精一杯の感がした。僅かに、GK大原の再三の好プレーと林の攻撃力は、韓国選手に勝るとも劣らぬ実力を発揮したのは立派だった。

女子の対戦は、力の差が余りにもはっきりして、終始貞信女のペースだった。動作そのものに違いがあり、貞信女の選手はボールを完全に握り、空間での技術をまざまざと見せつけた。正に攻撃パターンは、ヨーロッパスタイルである。これに対して、東京では多彩なオフェンス力を持つ藤村も、ハンドボールの違いにとまどい勝ちだった。しかし、最後まで大差をつけられながらも、よく高校生らしいマナーと精神力で食い下がり、この韓国チームに10得点をあげたのは賞賛に価する。

日本代表も敗れる

20日は、日本代表が出場するとあって館内も満員に近い入り、まず春、夏を制し好調を続ける高校界の女王、山陽女子が対戦した。固い守りで定評のチームが、どこまで韓国オフェンスに通用するかが焦点だったが、高い打点からのシュートのまえには簡単に崩された。

藤村女子戦では、温存していた金俊美がフル回転、流石にナショナルプレーヤーで展開の読みが抜群、ジャンプをした後にシュートモーションからのパスは、日本の高校女子のレベルではない。PTを含み合計6点をたたき出した力は相当な選手だ。

山陽女子も、沖田、中嶋、大林の活躍で必死に追いあげたが、前半の大差を詰めるには至らなかった。

それにしても、初めての25分の試合のせいか、山陽女子は前・後半共、残り5分間での得点はなかった。後半の最初20分間では10対8と2点リードしたのは、わずかに山陽女子の意地をみせた部分だった。残念なことだが日本、韓国の差は年々ひらきつつある。

期待の久留米も大差で敗れる

男子は、久留米工大附属である。大方の予想では、今大会で勝算のあるのはこのチームだけだという声が多かっただけに関係者や観衆の期待も大きかった。

スローオフ直後は、両チーム共にやや緊張気味で互いにミスが多

貞信女高対山陽女高戦

い。しかし、東亜の金彩奎が豪快にロングシュートを決めてから試合は急にペースがあがり、1点の取り合いでシーソーゲームを展開し、流石に両国トップレベルの対戦と館内もボールの行方を凝視する。4分10秒、久留米がリードをする絶好の速攻の場面を東亜の徐勲が好守備で取り、逆速攻に移し得点、東亜がリードする。7分経過の時、東亜のエース黄約那が反則で退場、久留米有利で再三のチャンスがおとずれたが、東亜の固いディフェンスと名GKの好守に阻まれ、得点に成らず逆に速攻とロングでこの間2対0と逆にリードされた。前半の中盤に入り、久留米は永松、中西らの得点で懸命に追い上げるが、冷静に展開を読む東亜は黄、辛がミドル、ポスト、さらには、金のロングで大きくリードする。しかし、久留米も粘り、残り4分、永松がカットイン、さらには片山から中西に繋ぎ、続いてPTを決め、2点差と詰め寄るが東亜の黄、李にあっさり決められ、また3点差となり前半を終了する。

後半も東亜の金のロングシュートで始まり、黄のバネをきかせた独特のミドル、フェイク、ポストイン、変則のステップなどで得点を重ね、残り14分で22対15と大差をつける。久留米もスカイプレー、ポストなど工夫を凝らした攻撃で追い上げようとするが、東亜の動きは衰えをみせず、日本代表久留米をも大差をつけて破った。

（川上整司）

▽8月18日

（東京府中市立体育館）

＜男子＞

東亜高（韓国）34（18－7，16－9）16 日体荏原高

得	【荏原】		【東亜】	得
1	大原	GK	徐勲	0
0	花本	GK	金奉佑	0
7	林	FP	金仁右	0
0	根本	FP	康彰元	12
3	吉田	FP	金秉旭	0
0	横堀	FP	黄約那	8
1	真野	FP	辛海奉	4
2	明石	FP	李仁和	6
2	長原	FP	朴章旭	0
0	渡辺	FP	金彩奎	3
0	福田	FP	鄭享錫	1
0	西川	FP		
16	(0)	PT	(2)	34

（審・後藤・大塚）

＜女子＞

貞信女高（韓国）29（14－6，15－4）10 藤村女高

得	【藤村】		【貞信】	得
0	南出	GK	金英玉	0
0	三浦	GK	尹秀卿	0
0	比田井	FP	成京花	4
0	福岡	FP	金俊美	1
1	柳井	FP	金京純	6
2	山田	FP	金順玉	5
3	星野	FP	卜憲順	4
1	原	FP	李美子	4
0	石川	FP	鄭京花	0
0	永井	FP	尹善姫	5
2	小林	FP	李明子	0
1	竹村	FP		
10	(0)	PT	(1)	29

（審・千野・三枝）

▽8月20日

（東京都府中市立体育館）

＜男子＞

東亜高（韓国）32（17－11，15－12）23 久留米工大附高

得	【久留米】		【東亜】	得
0	秋吉	GK	徐勲	0
0	坂本	GK	金奉佑	0
3	片山	FP	金仁右	0
4	甲斐	FP	康彰元	1
3	中西	FP	金秉旭	0
0	久保山	FP	黄約那	12
1	野中	FP	辛海奉	8
5	永松	FP	李仁和	2
2	村田	FP	朴章旭	0
0	樋口	FP	金彩奎	7
5	坂田	FP	鄭享錫	2
0	森下	FP		
23	(1)	PT	(5)	32

（審・千野・三枝）

＜女子＞

貞信女高（韓国）28（11－10，17－6）16 山陽女高

得	【山陽】		【貞信】	得
0	山口	GK	尹秀卿	0
0	笑迫	GK	金英玉	0
4	中嶋	FP	成京花	6
0	佐々木	FP	金俊美	9
1	石田	FP	金京純	6
0	山崎	FP	金順玉	3
1	池田	FP	卜憲順	0
5	沖田	FP	李美子	1
5	大林	FP	鄭京花	0
0	相川	FP	尹善姫	3
0	川本	FP	李明子	0
0	弘中	FP		
16	(1)	PT	(3)	28

（審・後藤・大塚）

各地の記録

◇長野県高校総体

（6月4、5日）

＜男子＞

▽1回戦

小諸 10－9 臼田
北佐久農 34－10 坂城
蟻ケ崎 キケン 千曲
小諸南 17－10 東海三
野沢南 18－14 美須々ケ丘
長野東 13－12 野沢北

▽2回戦

屋代 24－14 小諸
北佐久農 27－14 蟻ケ崎
野沢南 24－21 小諸南
上田 28－1 長野東

▽準決勝

屋代 20－15 北佐久農
上田 19－15 野沢南

▽決勝

屋代 19（8－10、11－8）18 上田

＜女子＞

▽1回戦

美須々ケ丘 15－6 北佐久農

▽2回戦

佐久 14－11 美須々ケ丘
屋代 19－3 蟻ケ崎
臼田 13－2 小海
小諸南 6－4 塩尻

▽準決勝

佐久 11－10 屋代
臼田 7－5 小諸商

▽決勝

佐久 16（8－1、8－4）5 臼田

◇第4回岩手県ハンドボールリーグ第一期

（6月12日）

▽一部

岩手大 23－11 冨戸スポーツ・ク
白堊ク 29－15 花巻送球会
岩手教員ク 27－23 岩手フェザント
花巻ク 19－13 盛岡商友会
岩手大 34－17 花巻送球会
岩手教員ク 16－8 冨戸スポーツ・ク
白堊ク 31－19 盛岡商友会
花巻ク 17－16 岩手フェザント

▽二部

岩手医科大 28－10 日立水沢
鵬ク 24－18 石桜ク
一関高専 25－8 志高ク
鵬ク 21－18 岩手医科大

◇第36回東北高校選手権

（6月24～26日）

＜男子＞

▽1回戦

野辺地（青森）25－16 羽後（秋田）
聖光学院（福島）24－21 真室川（秋田）
学法石川（福島）15－13 盛岡四（岩手）
湯沢（秋田）18－11 仙台向山（宮城）

▽2回戦

花巻北（岩手）24－22 野辺地
聖光学院 22－21 仙台育英学園（宮城）
学法石川 24－15 大石田（山形）
青森商（青森）22－16 湯沢

▽準決勝

花巻北 23（10－13、13－7）20 聖光学院
青森商 25（13－7、12－10）17 学法石川

▽決勝

青森商 25（14－11、11－8）19 花巻北

＜女子＞

▽1回戦

郡山女（福島）13－10 飯野川（宮城）
青森中央（青森）16－13 米沢中央（山形）
盛岡二（岩手）12－6 日大山形（山形）
秋田和洋女（秋田）11－8 青森西（青森）

▽2回戦

郡山女 15－11 大曲農（秋田）
青森中央 13－12 花巻北（岩手）
桶谷（宮城）14－10 盛岡二
緑が丘（福島）12－7 秋田和洋女

▽準決勝

郡山女 15（6－5、9－4）9 青森中央
緑が丘 12（5－0、7－2）2 桶谷

▽決勝

緑が丘 13（6－3、7－9）12 郡山

◇全国高校総体滋賀県予選

（6月26日）

＜男子＞

▽準決勝

米原 27－9 彦根工
高島 21－15 彦根東

▽3位決定戦

彦根東 22－16 彦根工

▽決勝

高島 18（6－6、8－8、1－1、1－1、2－2、0－0）18 米原
PTC 2－1

＜女子＞

▽準決勝

彦根西 18－2 愛知
彦根南 18－7 守山女

▽3位決定戦

守山女 16－9 愛知

▽決勝

彦根西 11（5－3、6－3）6 彦根南

◇関東クラブ選手権

（7月2、3日）

＜男子＞

▽1回戦

桜門会（東京）39－18 柿の実会（栃木）
富岡ク（群馬）26－14 蒔田ク（神奈川）
筑波振球会（茨城）25－17 4・6G会（埼玉）
日川ク（山梨）26－13 小金ク（千葉）

▽準決勝

桜門会 26（13－7、13－13）20 富岡ク
日川ク 31（16－5、15－12）17 筑波振球会

▽決勝

桜門会 30（15－11、15－14）25 日川ク

＜女子＞

▽1回戦

○リーグの部

日川ク（山梨）19－2 西峰ク（茨城）
武蔵野ク（東京）18－13 日川ク
武蔵野ク 23－6 西峰ク

○トーナメントの部

光電ク（群馬）21－6 保土ケ谷ク（神奈川）

佐原メッツ（千葉）10－7 4・6G会（埼玉）

▽2回戦

光電ク 34（18－2、16－2）4 佐原メッツ

▽決勝

光電ク 19（11－9、8－6）15 武蔵野ク

◇国体鳥取県予選

（7月3日）

＜男子＞

▽リーグ戦

境港市ク 31－18 倉吉ク

中部ク 29－21 倉吉ク

境港市ク 24－22 中部ク

（順位）①境港市ク②中部ク③倉吉ク

※女子は参加1チームの為予選はなし

◇国体東京都予選

（7月2、3、9日）

＜成年男子＞

▽1回戦

中村荷役 27－13 東京重機工業

東京教員 22－10 ラージェスト

▽準決勝

三陽商会 23－14 中村荷役

三景 16－14 東京教員

▽決勝

三陽商会 24（4－2、13－12、7－8）22 三景

＜女子＞

▽1回戦

武蔵野ク 28－16 東花ク

▽決勝

東京重機工業 33（21－7、12－7）14 武蔵野ク

◇国体山形県予選

（7月15～17日）

＜成年男子＞

▽1回戦

新庄ク 27－19 山形新球会

▽2回戦

東根球友会 28－21 新庄ク

大石田高矢作会 18－16 真室川高OB

▽決勝

大石田高矢作会 25（13－11、12－10）21 東根球友会

＜成年女子＞

▽決勝

米沢女高OG会 25（14－6、11－9）15 竹桜ク

＜少年男子＞

▽1回戦

山形工高 20－16 東根工高

真室川高 39－9 寒河江高

▽2回戦

大石田高 45－14 山形工高

真室川高 29－19 新庄工高

▽決勝

真室川高 28（13－12、15－5）17 大石田高

＜少年女子＞

▽リーグ戦

米沢女高 14－5 竹田女高

日大山形高 14－3 竹田女高

米沢女高 13－7 日大山形高

（順位）①米沢女高②日大山形高③竹田女高

◇国体青森県予選

（7月17、23、24日）

＜成年男子＞

○リーグ戦

青森教員 23－22 青森ク

青森ク 29－28 七戸ユニオン

青森教員 34－22 七戸ユニオン

（順位）①青森教員②青森ク③七戸ユニオン

＜少年男子＞

▽準決勝

柏木農 23－22 野辺地

野辺地横浜分 19－16 青森南

▽決勝リーグ

全青森 28－18 柏木農

柏木農 36－14 野辺地横浜分

全青森 35－8 野辺地横浜分

（順位）①全青森②柏木農③野辺地横浜分

＜少年女子＞

▽決勝リーグ

全青森 18－10 七戸

野辺地 14－7 七戸

全青森 12－7 野辺地

（順位）①全青森②野辺地③七戸

◇国体千葉県予選

（7月22～24日）

＜成年男子＞

▽1回戦

三井石油 42－24 日産石油

若潮クA 30－25 丸善石油

若潮クB 32－24 海自下総

▽準決勝

千葉教員 39－13 三井石油

若潮クA 28－25 若潮クB

▽決勝

千葉教員 44（23－8、21－7）15 若潮クA

＜成年女子＞

▽決勝

千葉ク 24（14－7、10－8）15 手児奈ク

＜少年男子＞

▽1回戦

生浜 14－9 上総

東京学館 8－5 木更津

二松学舎沼南 17－14 流山中央・

船橋旭 15－8 我孫子

柏南 16－4 佐原

東邦大付東邦 キケン 松戸六実

若松 25－8 千葉明徳

▽2回戦

生浜 20－14 幕張北

二松学舎沼南 18－16 東京学館

船橋旭 17－13 柏南

東邦大付東邦 23－15 若松

▽準決勝

二松学舎沼南 25－9 生浜

船橋旭 11－9 東邦大付東邦

▽決勝リーグ

千葉選抜 19（9－7、10－3）10 二松学舎沼南

二松学舎沼南 15（8－6、7－5）11 船橋旭

千葉選抜 19（9－3、10－1）4 船橋旭

（順位）①千葉選抜②二松学舎沼南③船橋旭

＜少年女子＞

▽1回戦

東邦大付東邦 7－4 生浜

▽2回戦

和洋女大付国府台女 22－3 柏南

千葉明徳 10－9 流山中央

佐原女 11－5 東邦大付東邦

▽準決勝

千葉選抜 19－5 和洋女子大付国市台女

佐原女 16－2 千葉明徳

▽決勝

千葉選抜 17（9－2、8－2）4 佐原女

第4回世界選手権ジュニア男子アジア地区予選を省みて

7月23～24日（中国・北京）

全日本ジュニアコーチ・早川清孝

親善試合の友好第一主義と異なり今大会は将来のアジア地区での戦いを左右する程の大事な大会であることは言うまでもなく、勝利が優先、要求される戦いである。

本来2回戦方式とは〝ホームアンドウェイ〟が原則であるはずの試合が、敵地（中国）での2試合という大きなハンディを背負っての戦いは、国際経験の浅いジュニア選手にとって環境（気候、食生活）等々の違い以上のプレッシャーを感じるものであった。

試合結果は、第1戦、第2戦ともに1点を争う好ゲームを展開し内容的には中国を圧倒する程のものがあったにもかかわらず惜敗した。勝敗の厳しさというものを痛切に感じさせられた戦いであった。

選手諸君には、数少ない短期間の合宿練習で、しかも合宿中に定期試験や実習などが重なる悪条件にもかかわらず選手各々が一致団結し、最後までよく頑張ってくれたことに感謝している。

残念ながら本大会（フィンランド）には出場を逸することになりましたが、選手個々には、この貴重な体験を通してさらに精進、努力し、将来の全日本（シニア）を担う選手が数多く出て来ることを期待します。

○全日本ジュニアの今後の課題

1日本人の形態的側面から考慮され、永年の課題である防御面の強化から、ジュニアクラスにおいても身長183㎝、体重75㎏位は最低限必要であり、基礎的体力は勿論、状況判断にも臨機応変に対処し得る柔軟性の思考を持つと同時に、大型化した選手の機能的能力の向上と敏捷性に優れる選手の強化が必要と思われる。

2精神面の強化

チャンピオンシップの闘争、勝負に対する貪欲な執念、集中力が要求される。また、一般的に言われるナショナリズムの欠如など積極的な姿勢が大切である。

3試合に勝って勝負に敗れる

国民性からくるものかどうか定かでないが、日本のハンドボールは全体的に攻撃志向が強く、攻撃主導型のチームが多い。

勿論、競技そのものが得点を争うスポーツであるがため、当然と言えば当然の様にも思えるが、果たして実際に観た場合、攻撃と同様に防御が必要なことは判断出来る。

この様な意識、傾向を一朝一夕に改革出来るものとは思われないが、勝利優先主義の観点からすれば必然的なことと考える。

終わりに、今年度全日本ジュニア選手として関わりました各々所属チームの監督及び関係者には、合宿、予選、大会等が重なったにもかかわらず心よく選手を送って頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

未知なる魅力を秘めた全日本ジュニア選手を今後とも宜しく御指導、御協力お願い致します。

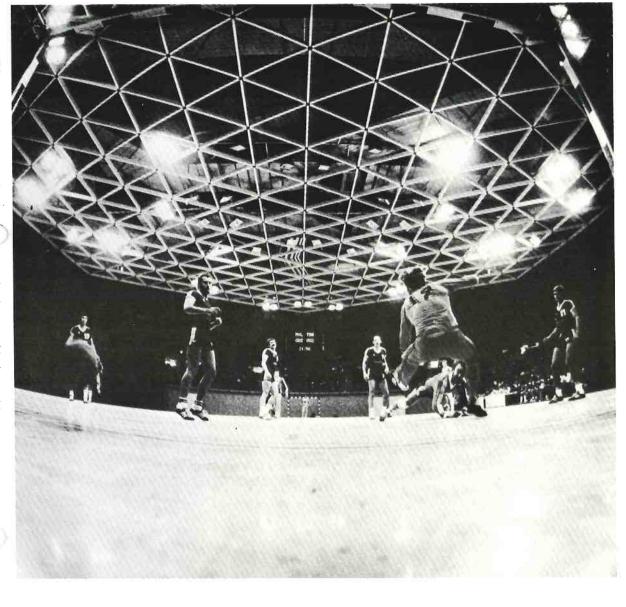
〔9月の黒板〕

8月31日　ニューカレドニアチーム遠征
9月1日　対関東学生選抜
2日　対日体大
4日　対筑波大
9日　対関西学生選抜
11日　対中央大
13日　対東海大
14日　帰国
9月1日～18日　全日本男子西ドイツ、ユーゴ遠征
2日　強化連絡会議
17日　常務理事会
21日　国体抽選会
24日～10月6日　第3回アジア選手権（韓国・ソウル）

人から、まず人からの科学。バイオメカニクス。

7人は、鳥である。
7人は壁である。

はるか、上空での空中戦を展開する競技である。
鉄壁の、という形容がふさわしい競技である。
防御から攻撃へ、ひとつの動きで移っていく。
コートという名の戦場では、身につけるウェア も、
作戦のひとつなのだ。バイオメカニクスから生まれた
ハンドボールウェア〈スカイハンド〉。
武器のような7人のために。

株式会社アシックス 商品その他お問い合わせは、株式会社アシックス消費者相談課まで。
〒564 大阪府吹田市豊津町2番3号 ☎(06)385-1111(大代表)

ドラマは「アディダス」と共にやってくる。

世界選手権。オリンピック。ヨーロッパカップ。ゲームが高度になればなるほどアディダスの真価は100%発揮されます。鍛えぬいた実力を、大切な一戦で確実に引き出してくれるハンドボールシューズ・ウェア。世界の強豪、そしてわれわれが〈スリー・ストライプス〉を選ぶ理由は、ただ一つ、勝利への熱い意欲です。

株式会社デサント/兼松スポーツ用品株式会社

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二二二号
昭和四十年六月[illegible]
第三種郵便物認可
昭和五八年八月二十五日印刷
昭和五八年九月一日発行
東京[illegible]谷区神南一―一―一
電話[illegible]表(467)七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)